



救急統計

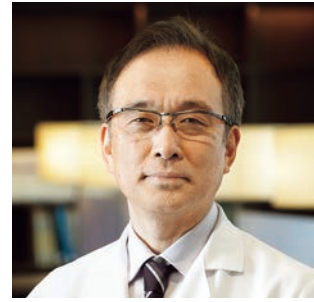
The Statistics of
The Emergency Medical Care

2022



救急医療で社会を支える

当地熊本に最初の患者が確認されてから3年余りを経て、新型コロナウイルス感染症はインフルエンザと同等の5類感染症に再定義されました。その変異は繰り返され、患者発生は続いています。法的な行動制限が解除された今、社会はその日常を取り戻すべく動き出しています。社会からの付託を受け、人々の健康と日々の営みを支えるのが医療と心得れば、人々が活動するための「セイフティ・ネット」である救急医療に揺るぎのないことは、今、益々重要になっています。



院長
中尾 浩一

本統計には2022年末に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症（第8波）が、私たちの診療体制に深刻な打撃を及ぼしたことが克明に示されています。爆発的な患者増加はもとより、医療スタッフの感染でマンパワーを失い、さらに連携医療機関への転院も滞りましたので、救急対応が極めて困難となりました。この時期、熊本市救急隊の出動件数は過去最多を記録し、搬送困難事案件数も過去最高のレベルに達しています。救急ホットラインでは、ヘリ搬送の応需は維持（ドクター・ヘリ97.5%、防災ヘリ100%）したものの、救急車からの要請には十分に応えられず、その応需率は、90.2%と大きく低下（前年度98.1%）しました。救命救急センターとしての役割を十分に果たせなかったことを大変心苦しく思う一方で、最前線で患者に接し、その搬送を担って奮闘された救急隊の方々のご苦勞を思い頭が下がります。

新型コロナウイルス感染症は当院の救急外来受診者の様相も大きく変えました。救急患者数は18,780名（前年度比 +11.3%）でしたが、ウオークイン患者が急増し、約7割を占めました（前年度は53%）。軽症の新型コロナウイルス感染症患者も多く、必然、救急受診者の入院率は36.1%と大きく低下（前年度41.9%）、24時間以内の緊急手術実施率も全体の3.7%と低下（前年度5.0%）しました。二次医療圏別に見ると、熊本市、上益城、宇城医療圏からの患者搬送が91.8%を占めていますが、菊池、阿蘇、あるいは県外といった遠隔地からの搬送数が増加しています。

さて、次年度から始まる「第8次医療計画」には「救急・災害医療提供体制」の検討とともに、「新たな新興感染症の発生に備える」ことも盛り込まれています。これまでの新型コロナウイルス感染症対応を振り返りながら、互いに関連する2つのテーマについての議論が交わされています。私たちは救命救急センターとして、策定される計画を踏まえつつ、行政・消防・医師会の皆様との連携をさらに強固なものとして、良質かつ適切な医療の提供に努めて参りたいと思います。

2023年10月

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院
院長 中尾 浩一

救急統計2022の発刊にあたり

2022年度救急統計の発刊が大幅に遅れましたこと、はじめにお詫び申し上げます。

現時点ですでに年度変わって半年が過ぎております現状は、本年5月に2020年から混乱を招いておりました新型コロナウイルス感染症の2類相当から5類感染症への移行が行われたことが大きな節目となりました。ある意味待ち望んでいました「ウイズ・コロナ」時代の到来です。

2022年度は新型インフルエンザ等感染症（2類相当）の最終年度(?)であり、このパンデミック第6～8波の時期に相当しております。本稿2022年度救急統計を改めて一覧しますと、当院への救急患者受診者数は数字的には新型コロナウイルス感染症前の患者数にほぼ戻りつつありますが、これは発熱外来を多く含むウオークイン外来受診者の増加がその主たる要因であり、本来当院の担うべき救急車等中～重症者の受け入れは一昨年度より更に減少しております。その理由としましては、パンデミック第6波（2021年2月～2022年5月）、第7波（2022年7月～9月）、第8波（2022年11月～2023年2月）の存在が大きく影響している印象があります。当初より救急外来・急患患者に対する新型コロナウイルス感染症の厳密なスクリーニング検査を実施した上での入院、病棟管理を継続して行っております。しかし、それをすり抜け入院後数日経って陽性が判明する患者や職員からの院内クラスター発生により院内数カ所の長期の病棟閉鎖や利用制限が発生し、救急車の受け入れを制限せざるを得ない状況が発生しておりました。新型コロナウイルス感染症の影響が救急車応需率や救急車受け入れの減少ならびに入院患者数、緊急手術数などの減少に反映されていると解釈しております。ご紹介いただきましたも病棟入院制限によりやむなくお断りさせていただき結果となりました案件が多く発生していたことは、改めてご紹介いただいた医療機関の皆様にお詫び申し上げます。

傾向として気になっていることは、心肺停止（CPA）症例数の増加です。パンデミックの3年間年々増加しており2022年度は319名となっております。今後も注視すべき案件であり、DNAR患者の病院前救急隊対応を含め早急な対応プロトコルの県内統一策

定なども課題であると思っております。

最後になりますが、2023年度は「ウイズ・コロナ」の真のスタートであり当院の救急対応に関しましても新たなチャレンジとさらなる改善に取り組むべき年度となります。引き続き忌憚ないご意見等いただけますと幸いです。



救命救急センター長
前原 潤一



2023年10月

救急統計2022の発刊にあたり

院長 中尾 浩一

救命救急センター長 前原 潤一

救急統計

救急統計

The Statistics of The Emergency Medical Care

2022

C o n t e n t s

1.2018年度～2022年度救急統計概要《5年推移》	2
2.来院手段	
2-1.5年推移(2018年度～2022年度)	3
2-2.月別	3
2-3.曜日別	4
2-4.時間帯別	5
3.転帰内容《5年推移》	6
4.年齢構成	7
5.CPA数	
受入件数	8
6.救急ホットライン応需数	9
7.救命救急センター42床への入院患者数	
7-1.診療科別患者数	9
7-2.疾患別患者数(TOP20)	10
7-3.転帰別患者数	11
7-4.外傷データベース(AIS・ISS別患者数)	11
8.紹介患者数	
8-1.紹介患者の転帰	12
8-2.二次保健医療圏別紹介患者数	12
9.医師(現場)出動件数	13
10.救急隊搬送件数	14
11.二次保健医療圏	
11-1.患者数	16
11-2.来院手段別	18

記事

「救急外来における帰宅時支援の取り組み」	30
院内救急救命士の展望	31
九州沖縄ブロックDMAT実働訓練を開催	32
済生メディコン会の実施状況	33
Facebookページの紹介	33

1 2018年度～2022年度救急統計概要《5年推移》

摘要		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
救急患者数		19,742		18,656		16,051		16,877		18,780	
ウォークイン※1		10,238	51.9%	9,851	52.8%	8,299	51.7%	8,942	53.0%	11,797	62.8%
救急車等※2		9,504	48.1%	8,805	47.2%	7,752	48.3%	7,935	47.0%	6,983	37.2%
性別	男性	10,615	53.8%	10,182	54.6%	8,947	55.7%	9,057	53.7%	9,719	51.8%
	女性	9,127	46.2%	8,474	45.4%	7,104	44.3%	7,820	46.3%	9,061	48.2%
平均年齢	入院	74.0		74.5		74.7		75.3		75.4	
	入院以外※3	60.4		60.6		61.2		58.1		48.4	
	全体	65.5		66.0		67.0		65.3		57.1	
転帰	入院	7,437	37.7%	7,280	39.0%	6,959	43.4%	7,073	41.9%	6,094	32.4%
	入院以外※3	12,305	62.3%	11,376	61.0%	9,092	56.6%	9,804	58.1%	12,686	67.6%
緊急手術※4	24時間内	899	4.6%	850	4.6%	882	5.5%	843	5.0%	688	3.7%
	48時間内	1,090	5.5%	1,062	5.7%	1,052	6.6%	1,050	6.2%	886	4.7%

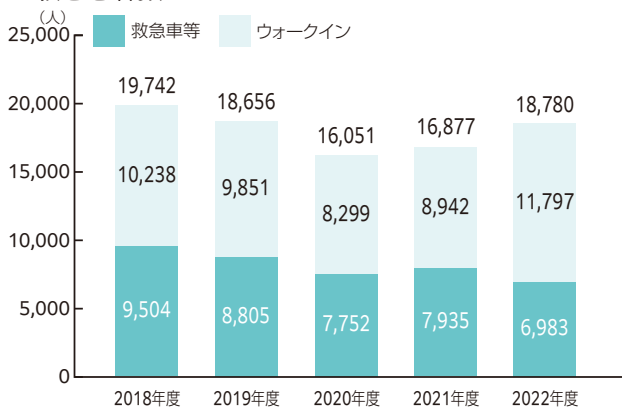
※1 ウォークインとは、独歩、自家用車のこと

※2 救急車等とは、救急車、病院車※5、防災ヘリ、Dr.ヘリ、MCCUのこと

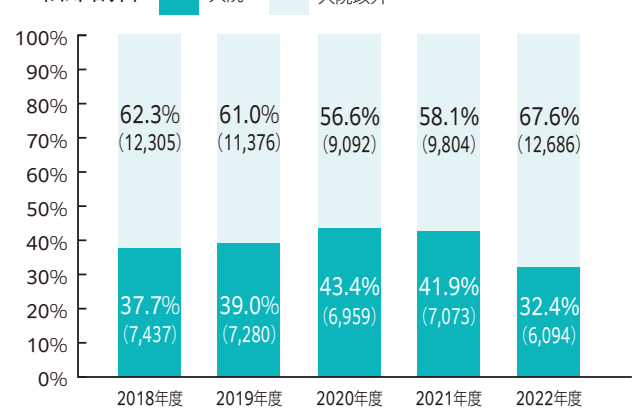
※3 入院以外とは、転帰が軽快・転医・死亡のこと

※4 緊急手術患者数とは救急外来受診後、緊急手術を要すると判断された患者数のこと（当院緊急手術区分該当者）

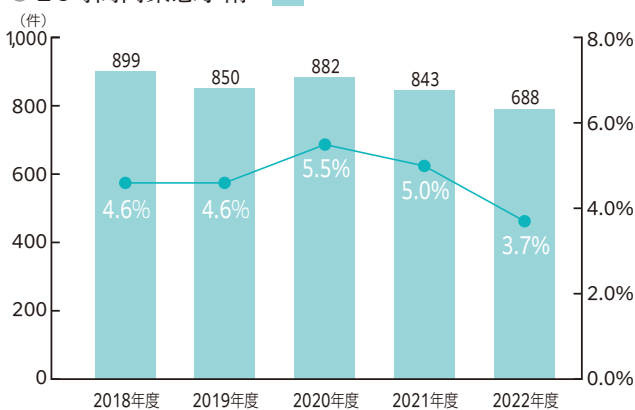
● 救急患者数



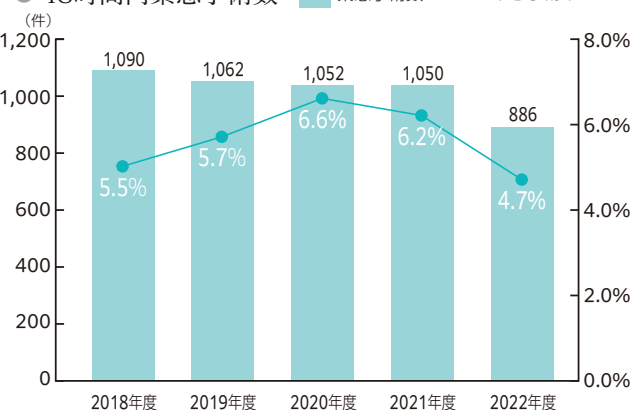
● 転帰割合



● 24時間内緊急手術



● 48時間内緊急手術数



2 来院手段

2-1 5年推移 (2018年度～2022年度)

(人)

来院手段		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ウォークイン		10,238	9,851	8,299	8,942	11,797
救急車等	救急車	8,611	8,048	7,117	7,173	6,349
	病院車	739	618	521	639	488
	ヘリ	154 (116)	139 (113)	114 (92)	123 (100)	146 (119)
合 計		19,742	18,656	16,051	16,877	18,780

※ヘリ件数は Dr. ヘリと防災ヘリの合算。

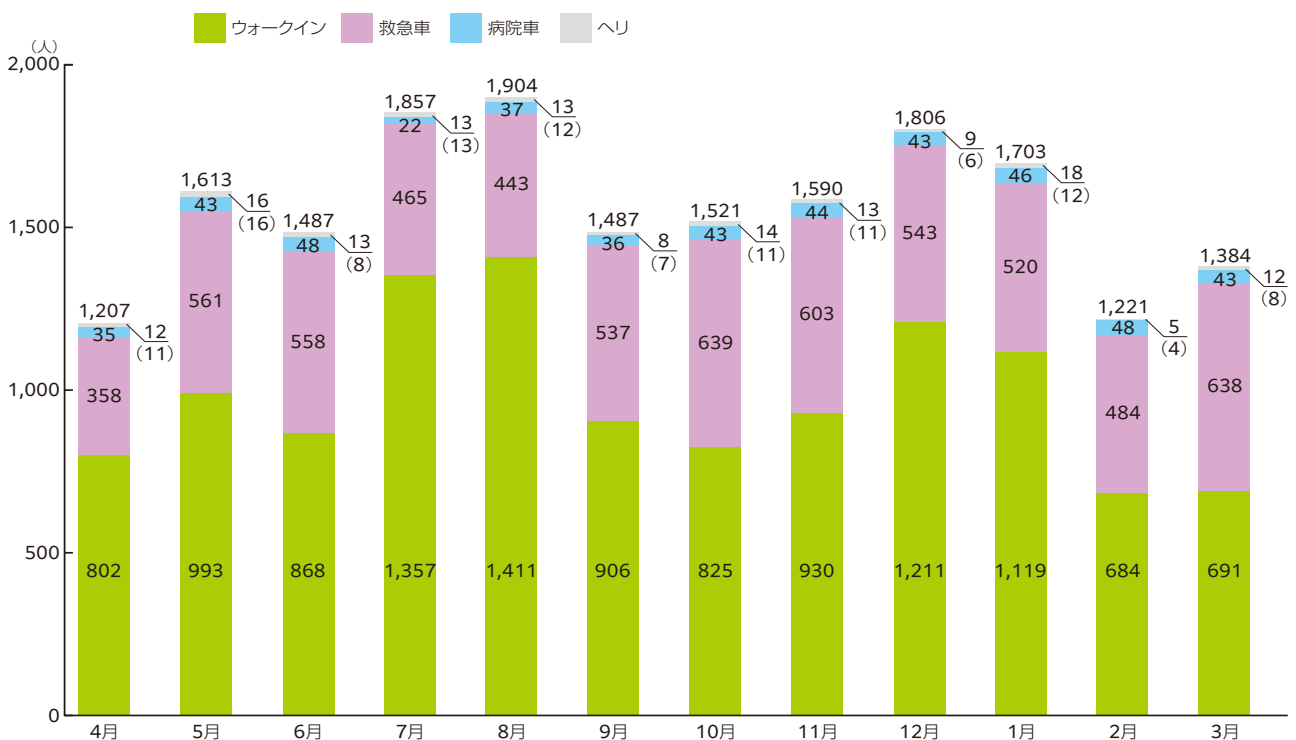
※ヘリ件数の括弧内は Dr. ヘリ件数。

※病院車とは、各医療機関所有の病院救急車・患者搬送車のこと

2-2 月別

(人)

来院手段	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ウォークイン	802	993	868	1,357	1,411	906	825	930	1,211	1,119	684	691	11,797
救急車等	救急車	358	561	558	465	443	537	639	603	543	484	638	6,349
	病院車	35	43	48	22	37	36	43	44	43	46	48	488
	ヘリ	12(11)	16(16)	13(8)	13(13)	13(12)	8(7)	14(11)	13(11)	9(6)	18(12)	5(4)	12(8)
合 計	1,207	1,613	1,487	1,857	1,904	1,487	1,521	1,590	1,806	1,703	1,221	1,384	18,780



2 来院手段

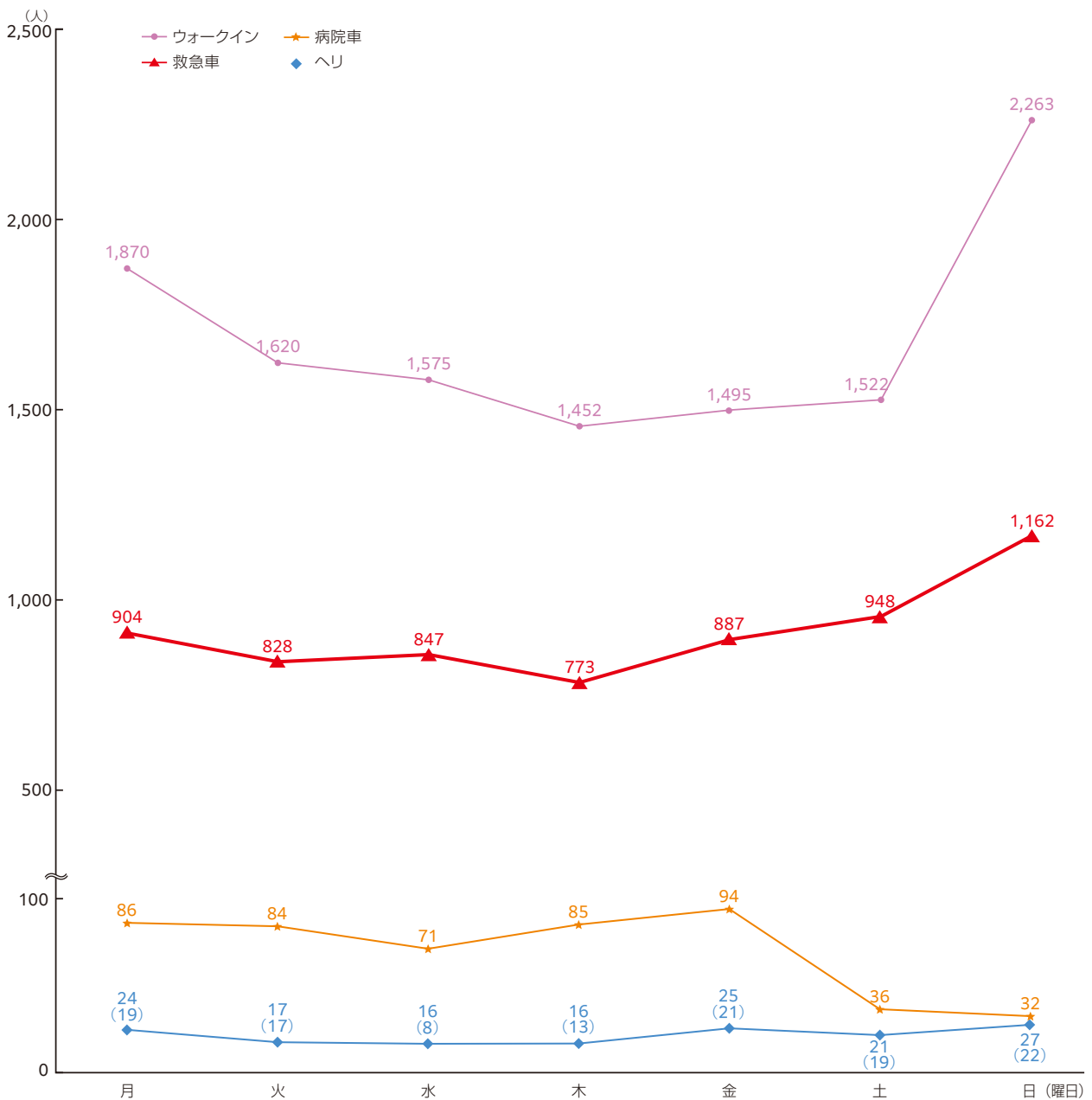
2-3 曜日別

(人)

来院手段	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	合計	
ウォークイン	1,870	1,620	1,575	1,452	1,495	1,522	2,263	11,797	
救急車等	救急車	904	828	847	773	887	948	1,162	6,349
	病院車	86	84	71	85	94	32	488	
	ヘリ	24 (19)	17 (17)	16 (8)	16 (13)	25 (21)	21 (19)	27 (22)	146 (119)
合計	2,884	2,549	2,509	2,326	2,501	2,527	3,484	18,780	

※ヘリ件数は Dr. ヘリと防災ヘリの合算。

※ヘリ件数の括弧内は Dr. ヘリ件数。



2-4 時間帯別

(人)

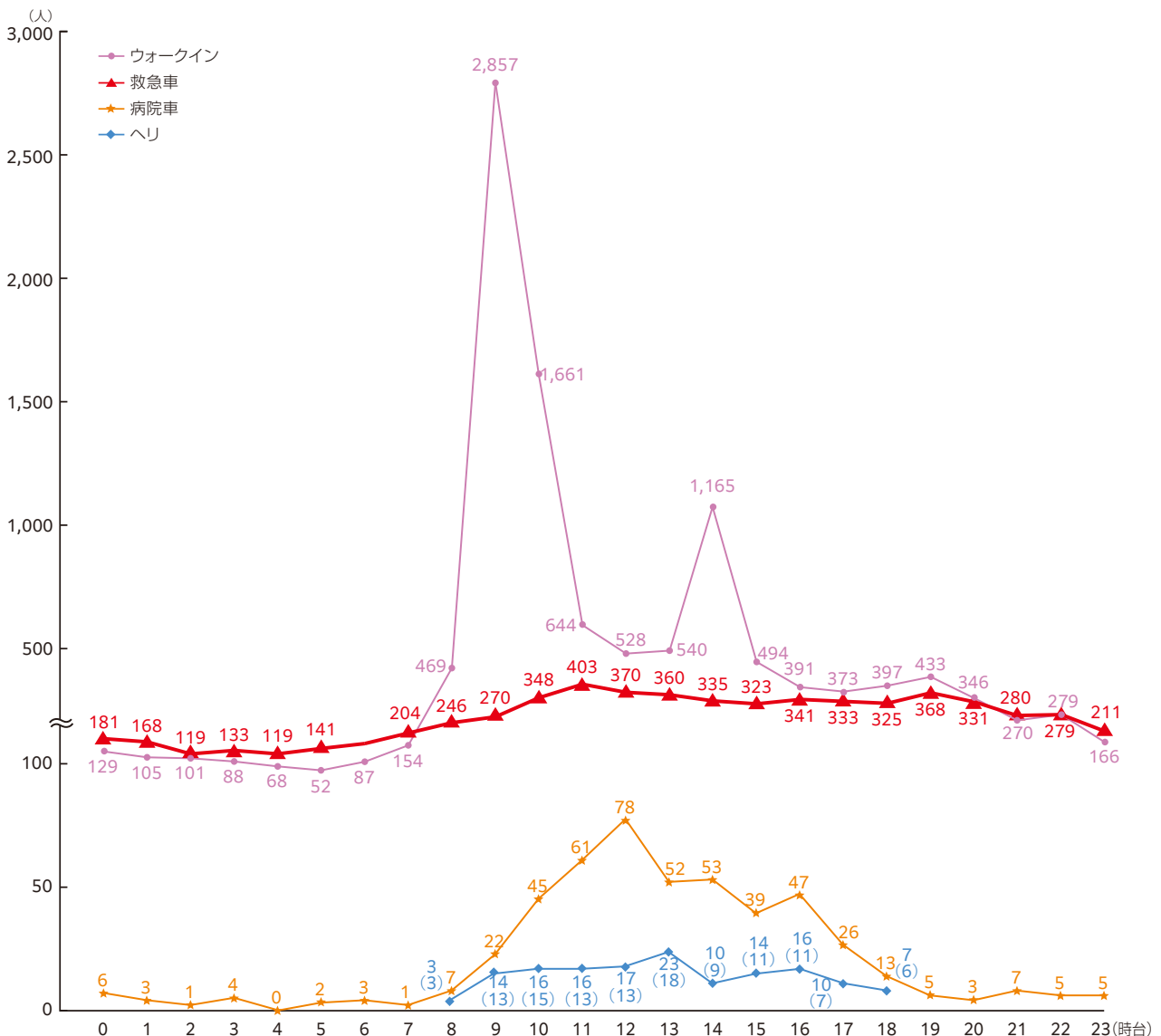
来院手段	0 時台	1 時台	2 時台	3 時台	4 時台	5 時台	6 時台	7 時台	8 時台	9 時台	10 時台	11 時台	12 時台	
ウォークイン	129	105	101	88	68	52	87	154	469	2,857	1,661	644	528	
救急車等	救急車	181	168	119	133	119	141	161	204	246	270	348	403	370
	病院車	6	3	1	4	0	2	3	1	7	22	45	61	78
	ヘリ	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (3)	14 (13)	16 (15)	16 (13)	17 (13)
合計	316	276	221	225	187	195	251	359	725	3,163	2,070	1,124	993	

(人)

来院手段	13 時台	14 時台	15 時台	16 時台	17 時台	18 時台	19 時台	20 時台	21 時台	22 時台	23 時台	合計	
ウォークイン	540	1,165	494	391	373	397	433	346	270	279	166	11,797	
救急車等	救急車	360	335	323	341	333	325	368	331	280	279	211	6,349
	病院車	52	53	39	47	26	13	5	3	7	5	5	488
	ヘリ	23 (18)	10 (9)	14 (11)	16 (11)	10 (7)	7 (6)	0	0	0	0	0	146 (119)
合計	975	1,563	870	795	742	742	806	680	557	563	382	18,780	

※ヘリ件数は Dr. ヘリと防災ヘリの合算。

※ヘリ件数の括弧内は Dr. ヘリ件数。



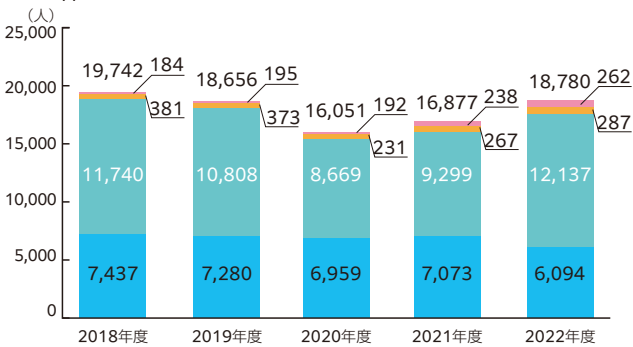
3 転帰内容《5年推移》

転 帰	2018年度				2019年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入院	2,047	5,390	7,437	37.7%	1,976	5,304	7,280	39.0%
帰宅	8,117	3,623	11,740	59.5%	7,782	3,026	10,808	57.9%
転院	74	307	381	1.9%	91	282	373	2.0%
死亡	0	184	184	0.9%	2	193	195	1.0%
合 計	10,238	9,504	19,742	100.0%	9,851	8,805	18,656	100.0%

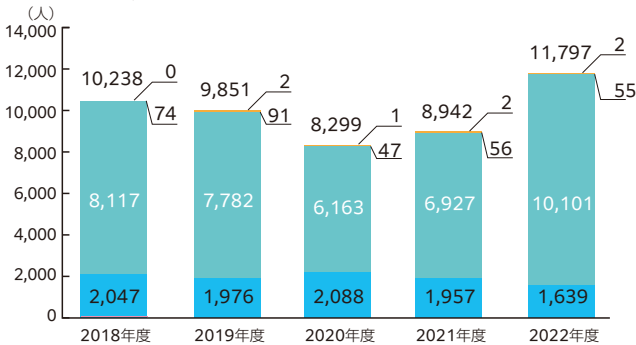
転 帰	2020年度				2021年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入院	2,088	4,871	6,959	43.4%	1,957	5,116	7,073	41.9%
帰宅	6,163	2,506	8,669	54.0%	6,927	2,372	9,299	55.1%
転院	47	184	231	1.4%	56	211	267	1.6%
死亡	1	191	192	1.2%	2	236	238	1.4%
合 計	8,299	7,752	16,051	100.0%	8,942	7,935	16,877	100.0%

転 帰	2022年度			
	ウォークイン	救急車等	合計	全体割合
入院	1,639	4,455	6,094	32.4%
帰宅	10,101	2,036	12,137	64.6%
転院	55	232	287	1.5%
死亡	2	260	262	1.4%
合 計	11,797	6,983	18,780	100.0%

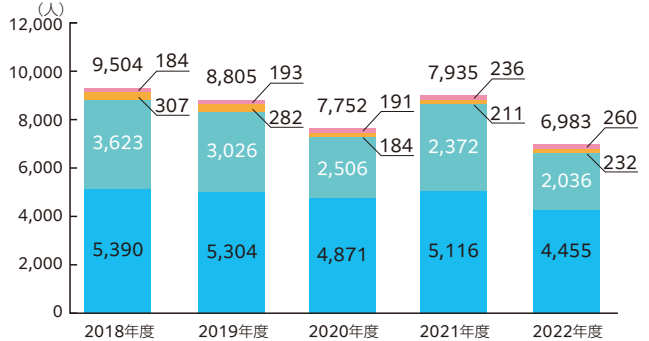
● 全体



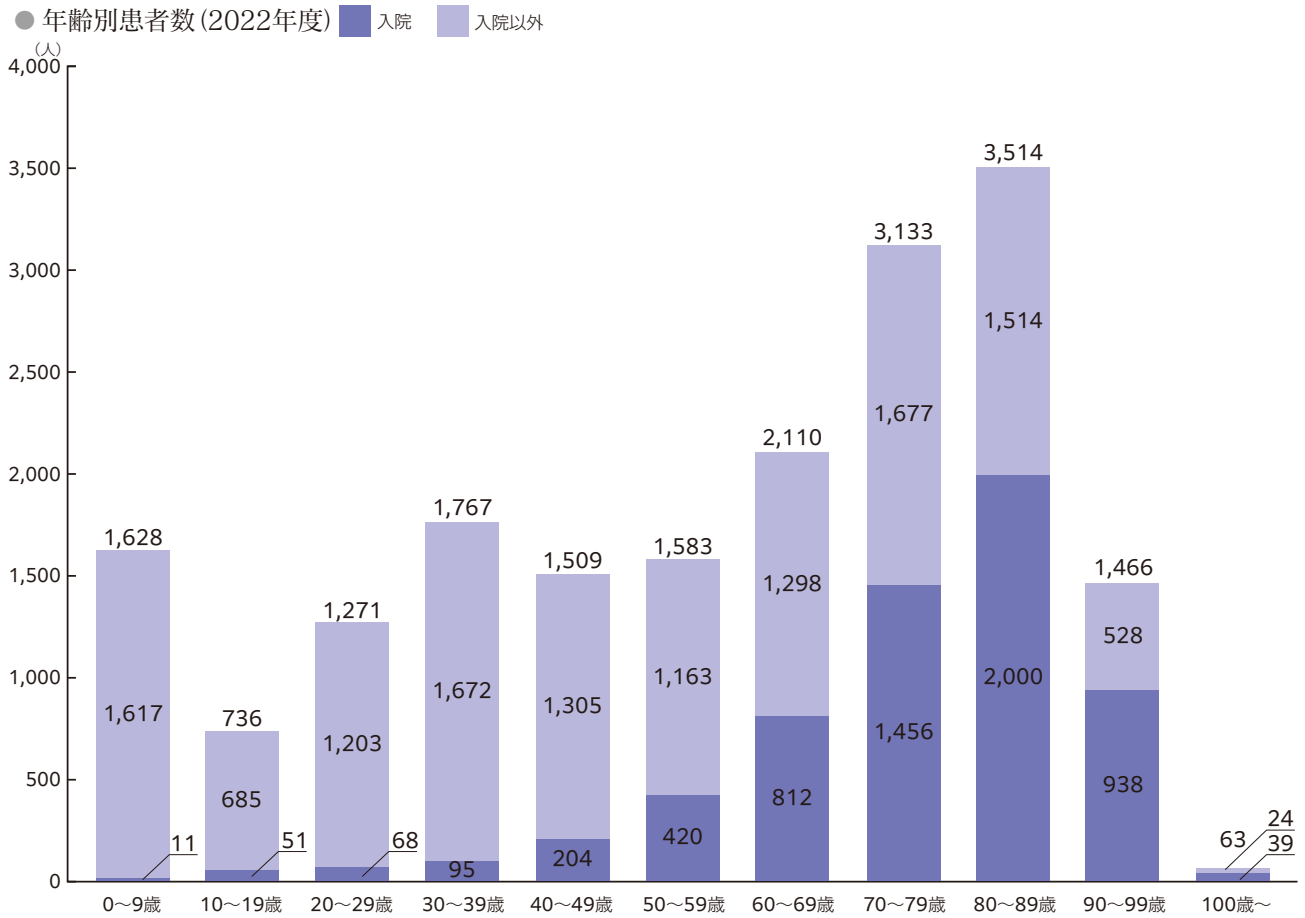
● ウォークイン



● 救急車等

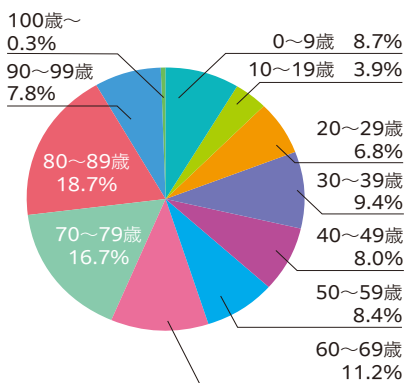


4 年齢構成

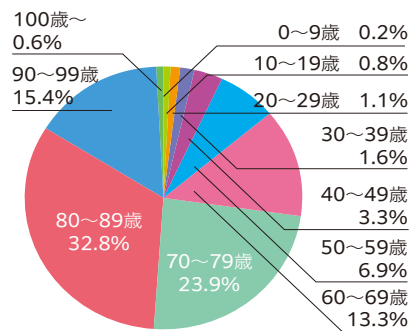


《年齢別患者数の割合》

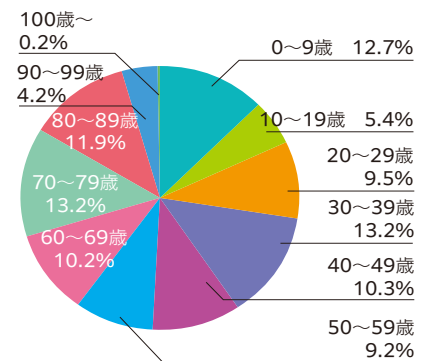
● 全体



● 入院



● 入院以外



5 CPA数【CPA (cardio pulmonary arrest) : 心肺停止】

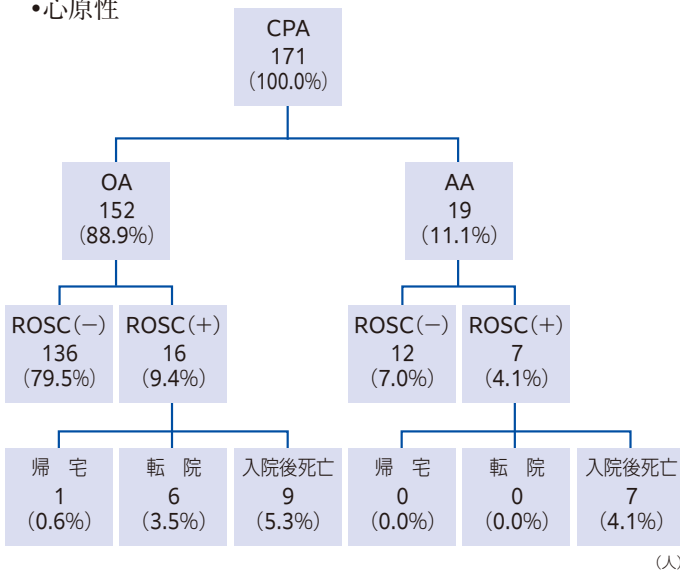
● 受入件数

内 訳	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
OA ROSC (-)	150	59.5%	159	61.9%	174	67.4%	204	70.1%	205	64.3%
OA ROSC (+) ※車内 ROSC (+) 含む	44	17.5%	52	20.2%	37	14.3%	50	17.2%	59	18.5%
AA ROSC (-)	32	12.7%	24	9.3%	15	5.8%	25	8.6%	34	10.7%
AA ROSC (+)	26	10.3%	22	8.6%	32	12.4%	12	4.1%	21	6.6%
合 計	252	100.0%	257	100.0%	258	100.0%	291	100.0%	319	100.0%

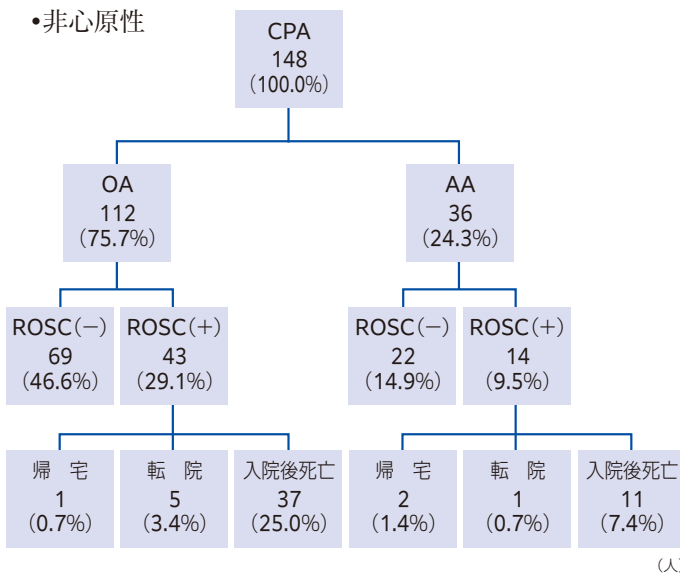
OA…到着 (来院) 時心肺停止 AA…到着 (来院) 直後心肺停止 ROSC…心拍再開 (return of spontaneous circulation)

● 2022年度

● 心原性

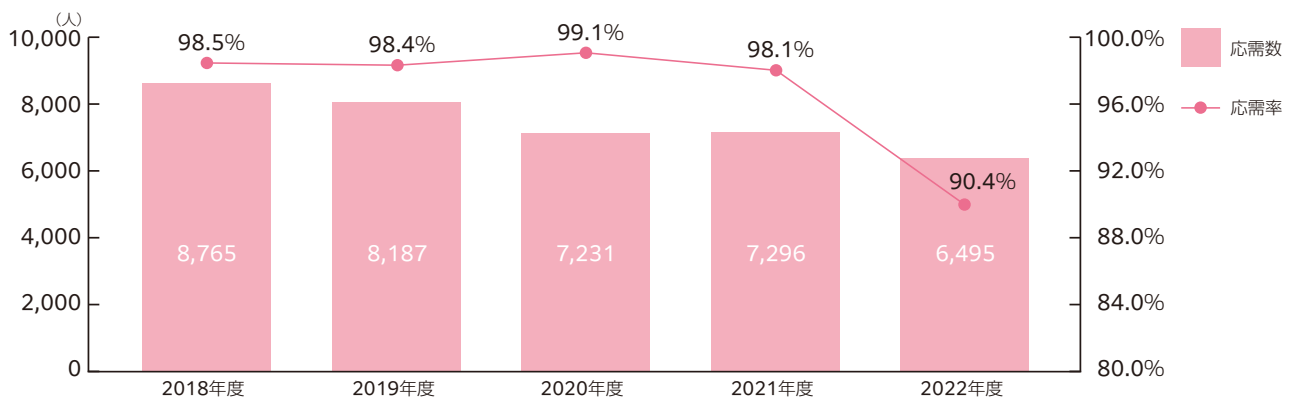


● 非心原性



6 救急ホットライン応需数

種 別	2018 年度			2019 年度			2020 年度			2021 年度			2022 年度		
	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率	件数	応需数	応需率
救急車	8,743	8,611	98.5%	8,178	8,048	98.4%	7,178	7,117	99.2%	7,313	7,173	98.1%	7,039	6,349	90.2%
ドクターヘリ	121	116	95.9%	116	113	97.4%	95	92	96.8%	104	100	96.2%	122	119	97.5%
防災ヘリ	38	38	100.0%	26	26	100.0%	23	22	95.7%	23	23	100.0%	27	27	100.0%
合 計	8,902	8,765	98.5%	8,320	8,187	98.4%	7,296	7,231	99.1%	7,440	7,296	98.1%	7,188	6,495	90.4%



7 救命救急センター 42 床への入院患者数

7-1 診療科別患者数

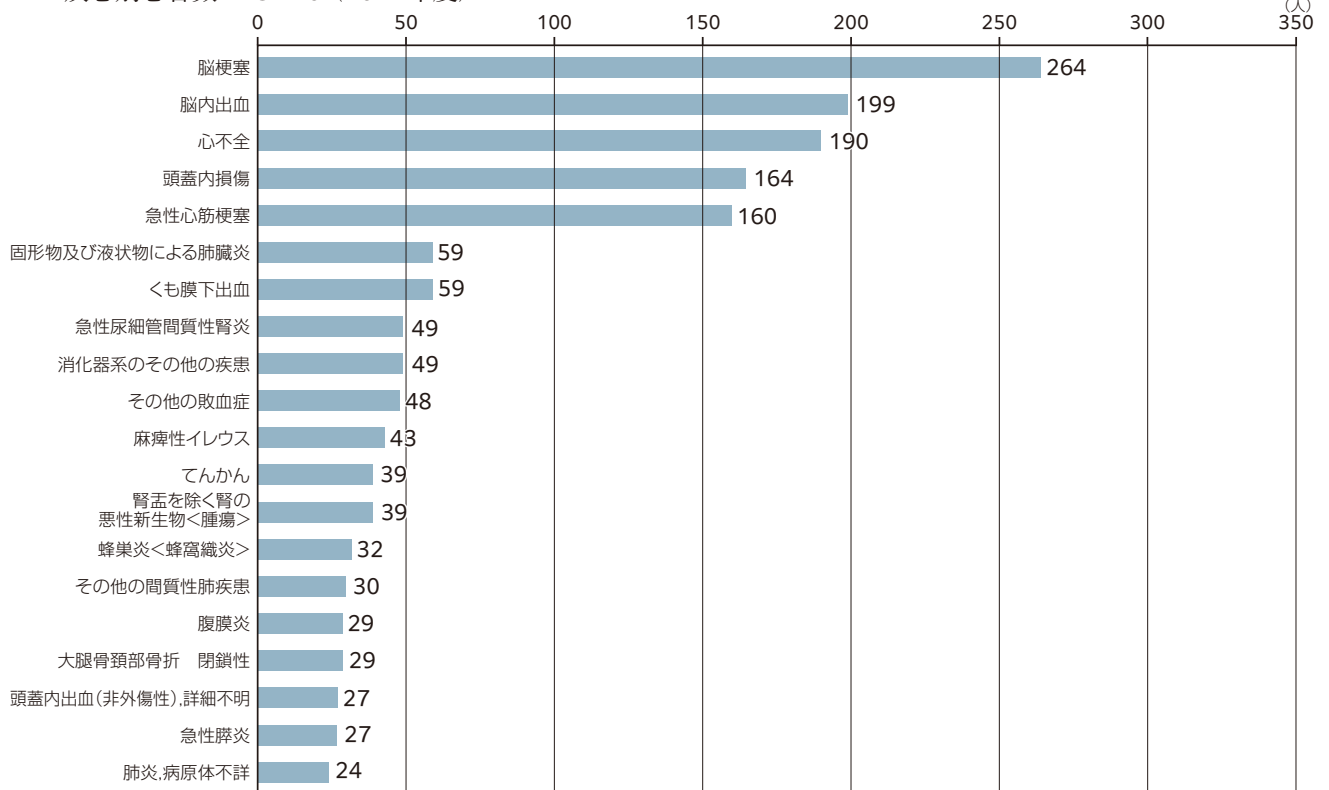
診療科	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
脳神経外科	695	622	537	523	492
循環器内科	473	489	472	526	465
救急・総合診療科	469	495	484	433	375
脳神経内科	442	384	257	323	346
消化器内科	326	263	291	305	273
呼吸器科	284	295	253	246	205
腎・泌尿器科	81	80	80	155	150
外科	155	120	125	123	101
整形外科	69	75	93	70	89
心臓血管外科	9	14	21	28	23
総合腫瘍科	7	7	3	19	19
糖尿病内科	14	16	11	8	6
包括診療科		3	5	0	0
合 計	3,024	2,863	2,632	2,759	2,544

7 救命救急センター 42 床への入院患者数

7-2 疾患別患者数 (TOP20)

疾患 (TOP20)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
脳梗塞	295	291	191	229	264
脳内出血	241	256	226	211	199
心不全	178	159	194	232	190
頭蓋内損傷	286	234	166	177	164
急性心筋梗塞	160	177	158	166	160
固形物及び液状物による肺臓炎	86	96	101	78	59
くも膜下出血	89	85	64	65	59
急性尿細管間質性腎炎	24	38	37	49	49
消化器系のその他の疾患	86	55	65	44	49
その他の敗血症	38	57	73	56	48
麻痺性イレウス	62	48	55	54	43
てんかん	105	68	59	56	39
腎盂を除く腎の悪性新生物<腫瘍>	0	3	1	26	39
蜂巣炎<蜂窩織炎>	9	17	14	15	32
その他の間質性肺疾患	23	26	28	39	30
腹膜炎	15	19	26	29	29
大腿骨頸部骨折 閉鎖性	15	19	26	24	29
頭蓋内出血 (非外傷性), 詳細不明	58	32	56	48	27
急性膵炎	21	24	29	26	27
肺炎, 病原体不詳	52	32	41	34	24

● 疾患別患者数 TOP20 (2022年度)

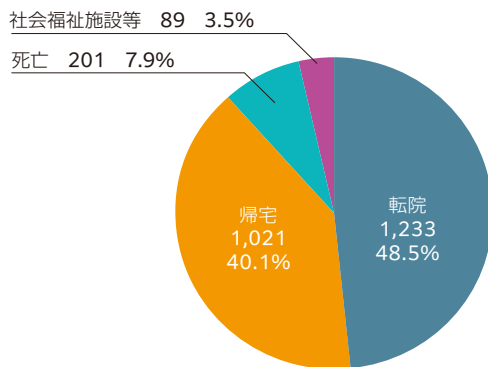


7-3 転帰別患者数

(人)

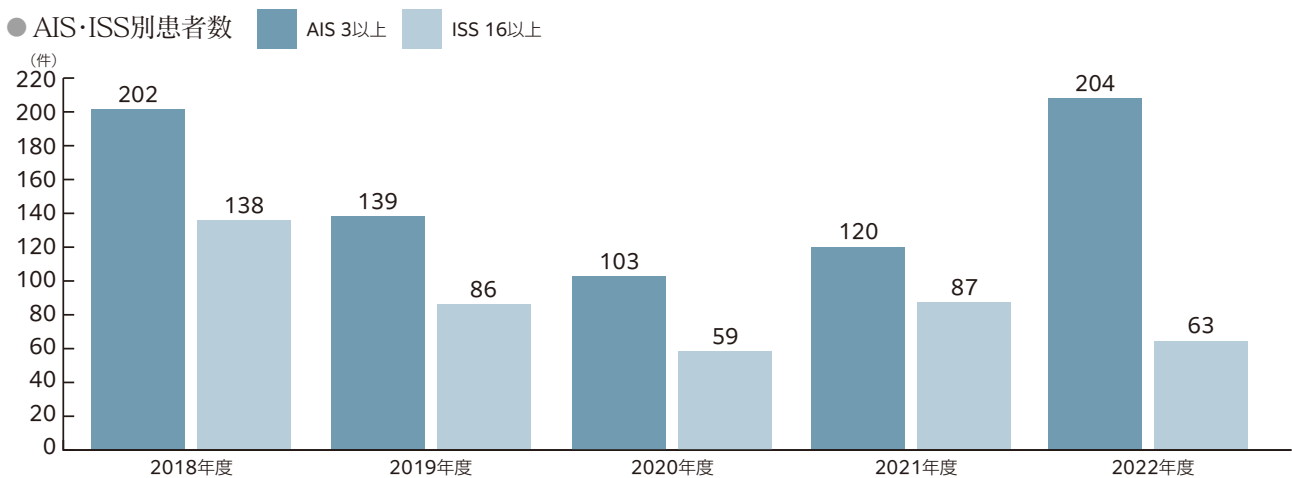
転 帰	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
転院	1,590	1,537	1,401	1,378	1,233
帰宅	1,142	1,040	954	1,015	1,021
死亡	164	191	181	216	201
社会福祉施設等	128	95	96	150	89
合 計	3,024	2,863	2,632	2,759	2,544

● 2022年度



7-4 外傷データバンク (AIS・ISS 別患者数)

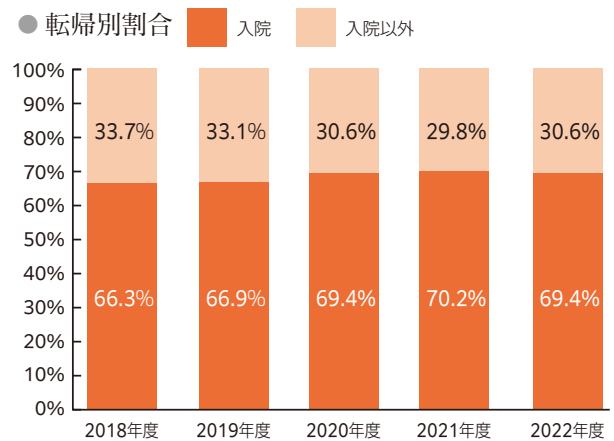
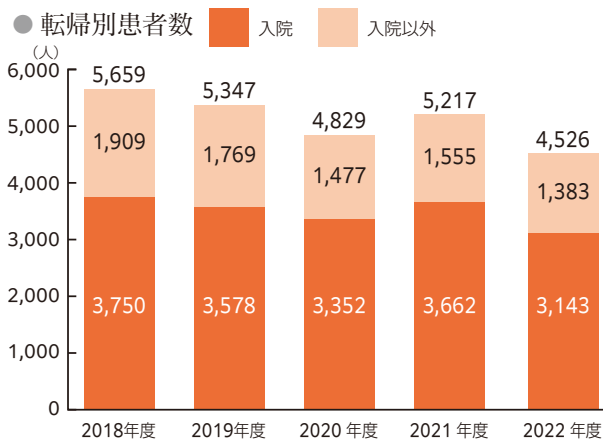
AIS (部位や損傷形態、重症度を表す) 3以上とISS (多部位、多発損傷を表す) 16以上の件数



8 紹介患者数

8-1 紹介患者の転帰

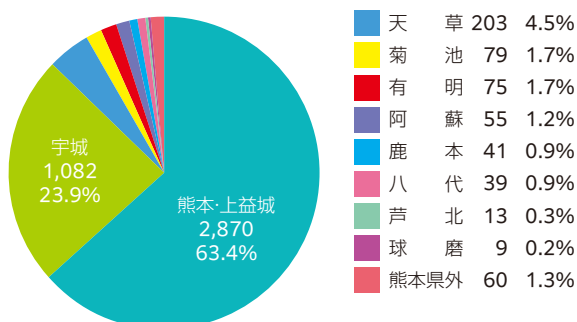
	転帰	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
紹介患者数	入院	3,750	3,578	3,352	3,662	3,143
	入院以外	1,909	1,769	1,477	1,555	1,383
	合計	5,659	5,347	4,829	5,217	4,526



8-2 二次保健医療圏別紹介患者数 (患者の居住区を基準としている)

二次保健医療圏	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
熊本県内	熊本・上益城	3,613	3,323	3,053	3,264	2,870
	宇城	1,310	1,306	1,227	1,331	1,082
	天草	237	234	199	231	203
	菊池	90	117	89	90	79
	有明	110	99	89	98	75
	阿蘇	52	56	24	32	55
	鹿本	37	42	31	54	41
	八代	44	57	42	23	39
	芦北	31	13	7	18	13
	球磨	33	16	10	16	9
熊本県外	102	84	58	60	60	
合計	5,659	5,347	4,829	5,217	4,526	

● 2次医療圏別患者数割合 (2022年度)



9 医師(現場) 出動件数

医師による(現場) 出動件数。

(件)

車 両	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ワークステーション(熊本市消防本部)・救急ピックアップ	54	65	13	18	28
防災ヘリ(熊本県防災消防航空隊)	27	22	13	15	13
病院ドクターカー	0	3	0	5	7
DMAT(当院災害派遣医療チーム)	0	0	5	0	0
合 計	81	90	31	38	48

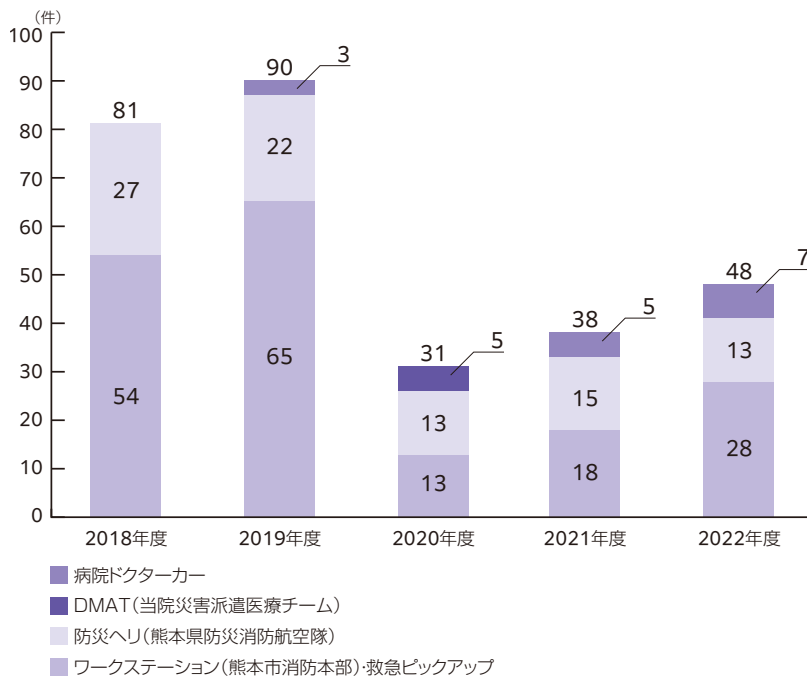
※出動内容

・ワークステーション・救急ピックアップは現場出動

・防災ヘリ・病院ドクターカーは病院間搬送のための搭乗

※2020年4～9月・2021年1～3月及び8～9月・2022年1～3月は、新型コロナウイルス感染症の影響によりワークステーション活動を休止

※2020年7月の熊本県南部を中心とした豪雨災害へDMATを派遣



(件)

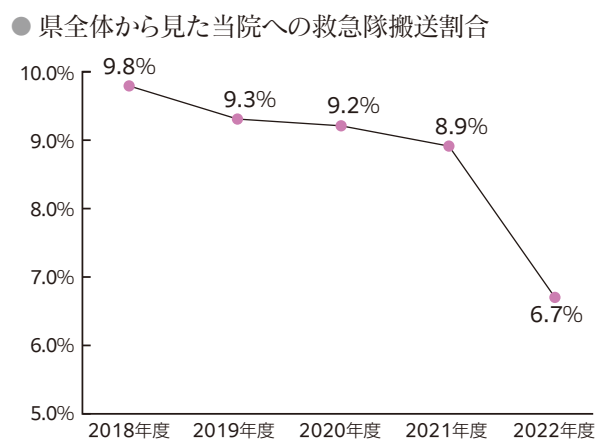
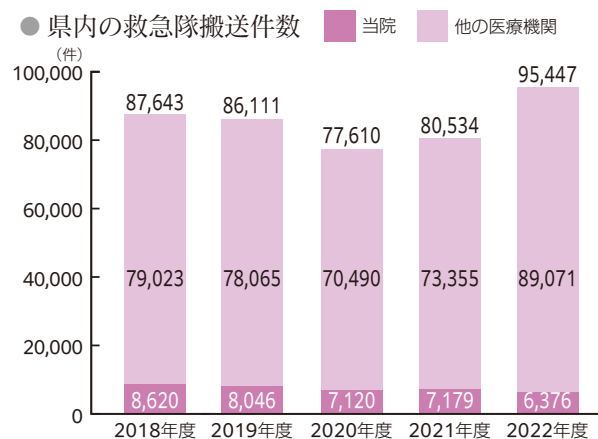
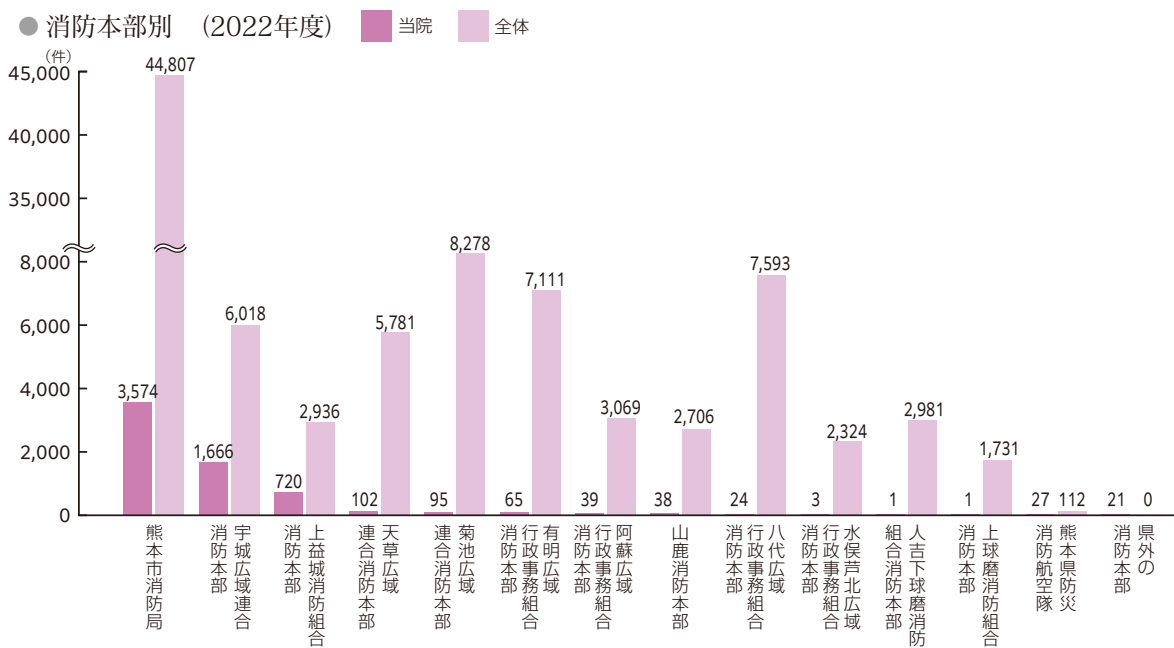
車 両	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ワークステーション(熊本市消防本部)・救急ピックアップ	0	6	2	3	0	0	3	2	2	2	3	5	28
防災ヘリ(熊本県防災消防航空隊)	1	0	3	0	1	2	2	0	1	2	0	1	13
病院ドクターカー	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	1	7
DMAT(当院災害派遣医療チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1	6	5	3	1	2	5	5	5	5	3	7	48

※2021年8～9月・2022年1～3月は、新型コロナウイルス感染症の影響によりワークステーション活動を休止

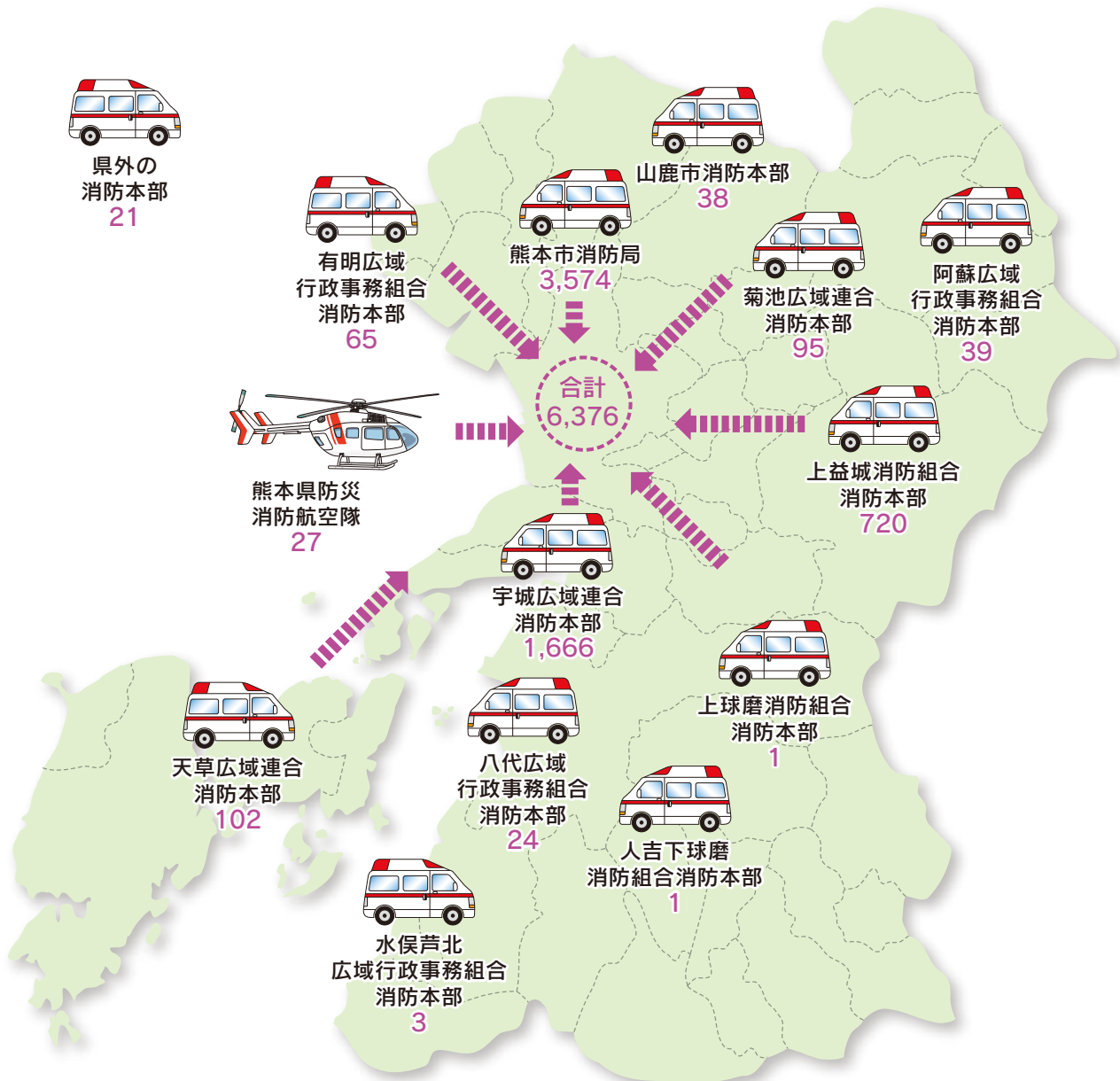
10 救急隊搬送件数

(件)

消防本部	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	当院	全体	当院	全体	当院	全体	当院	全体	当院	全体
熊本市消防局	4,713	39,182	4,339	39,027	3,781	34,283	3,867	34,478	3,574	44,807
宇城広域連合消防本部	2,306	5,987	2,171	6,255	2,083	5,715	2,047	6,190	1,666	6,018
上益城消防組合消防本部	1,155	2,788	1,081	2,794	859	2,392	843	2,651	720	2,936
天草広域連合消防本部	94	5,355	115	5,286	103	4,768	126	5,144	102	5,781
菊池広域連合消防本部	106	7,594	109	7,543	100	6,806	93	7,501	95	8,278
有明広域行政事務組合消防本部	98	6,946	96	6,489	89	6,105	74	6,480	65	7,111
阿蘇広域行政事務組合消防本部	29	3,057	24	2,620	16	2,370	27	2,670	39	3,069
山鹿消防本部	40	2,797	34	2,644	27	2,431	53	2,391	38	2,706
八代広域行政事務組合消防本部	28	7,357	38	6,734	38	6,287	13	6,674	24	7,593
水俣芦北広域行政事務組合消防本部	8	2,159	5	2,204	1	2,010	7	2,054	3	2,324
人吉下球磨消防組合消防本部	5	2,689	8	2,885	2	2,733	6	2,675	1	2,981
上球磨消防組合消防本部	0	1,378	0	1,465	0	1,595	0	1,521	1	1,731
熊本県防災消防航空隊	38	354	26	165	22	115	23	105	27	112
県外の消防本部	29	—	28	—	18	—	17	—	21	—
合計	8,649	87,643	8,074	86,111	7,139	77,610	7,196	80,534	6,376	95,447



● 当院への搬送件数 (2022年度)



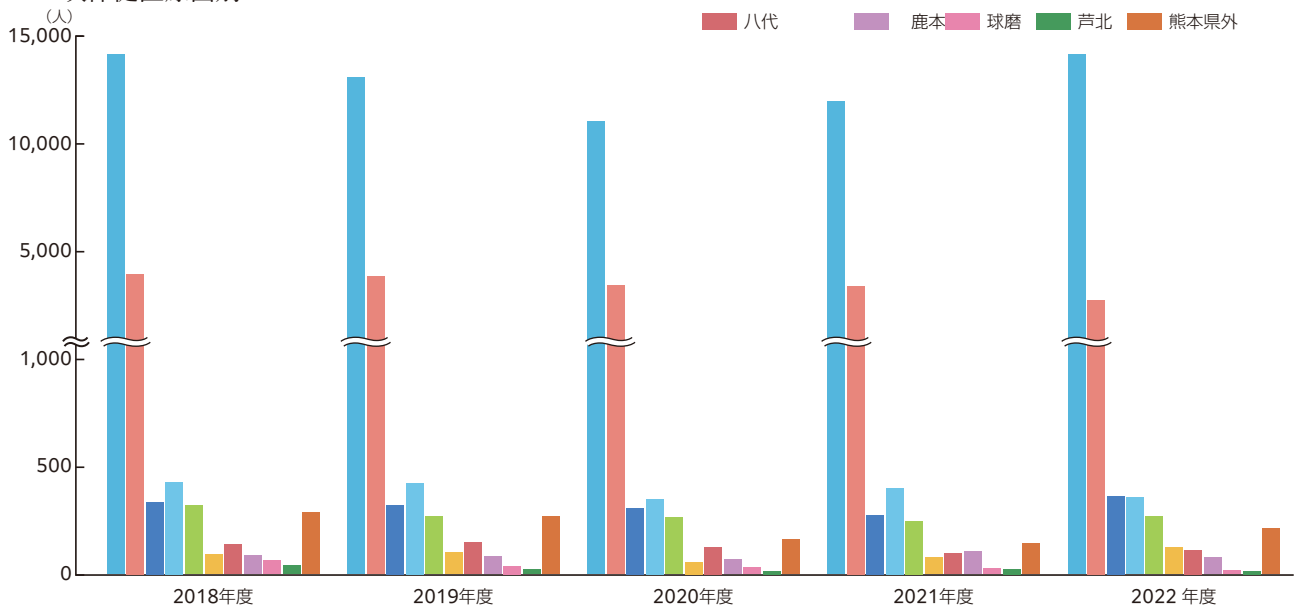
11 二次保健医療圏

11-1 患者数

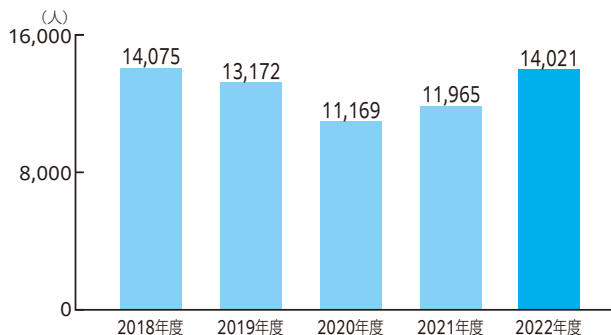
患者の居住区を基に二次保健医療圏で表した。

二次保健医療圏		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
熊本県内	熊本・上益城	14,075	71.3%	13,172	70.6%	11,169	69.6%	11,965	70.9%	14,021	74.7%
	宇城	3,839	19.4%	3,777	20.2%	3,477	21.7%	3,486	20.7%	3,213	17.1%
	菊池	343	1.7%	328	1.8%	314	2.0%	281	1.7%	363	1.9%
	天草	437	2.2%	433	2.3%	356	2.2%	409	2.4%	355	1.9%
	有明	327	1.7%	275	1.5%	268	1.7%	253	1.5%	268	1.4%
	阿蘇	94	0.5%	102	0.6%	57	0.4%	80	0.5%	125	0.7%
	八代	140	0.7%	151	0.8%	130	0.8%	98	0.6%	112	0.6%
	鹿本	89	0.5%	83	0.4%	70	0.4%	107	0.6%	77	0.4%
	球磨	65	0.3%	39	0.2%	31	0.2%	28	0.2%	18	0.1%
	芦北	41	0.2%	23	0.1%	15	0.1%	24	0.1%	16	0.1%
熊本県外	292	1.5%	273	1.5%	164	1.0%	146	0.9%	212	1.1%	
合計	19,742	100.0%	18,656	100.0%	16,051	100.0%	16,877	100.0%	18,780	100.0%	

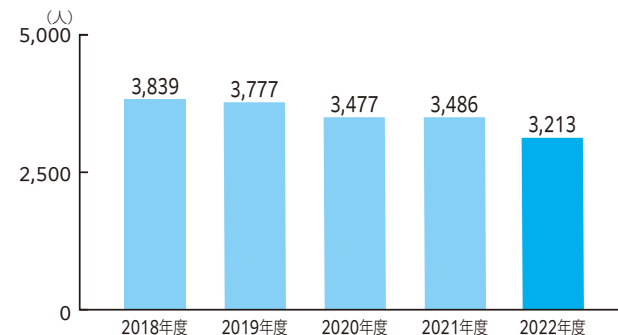
● 二次保健医療圏別

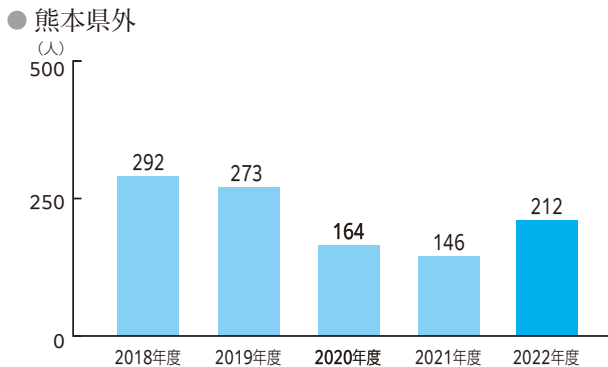
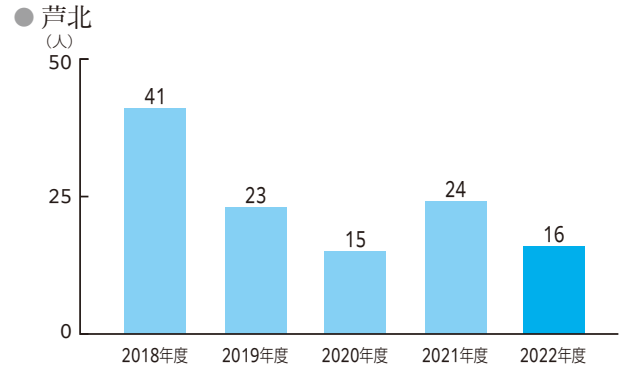
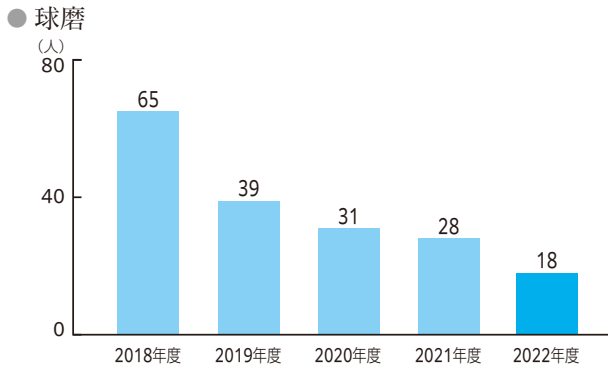
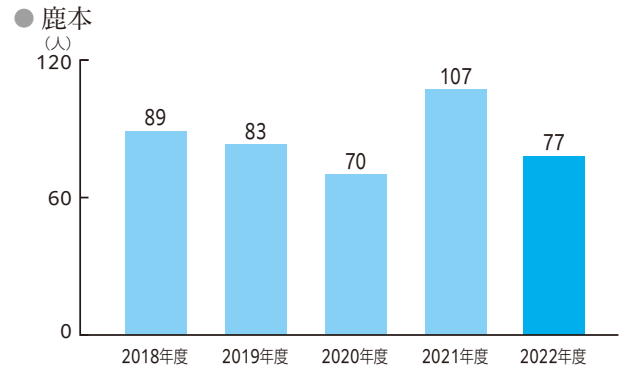
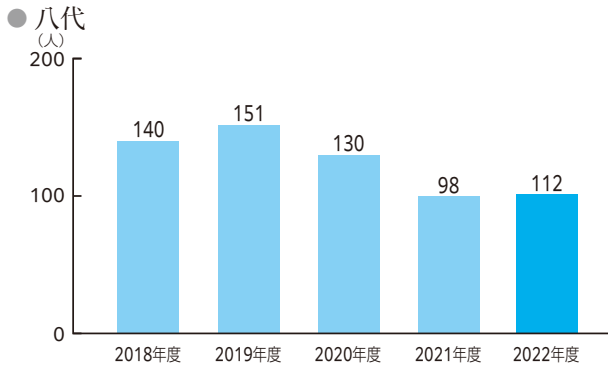
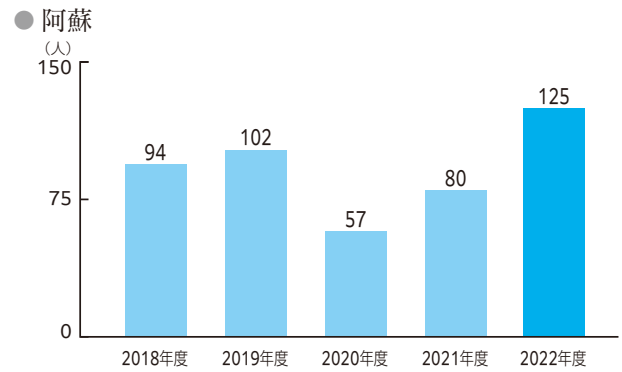
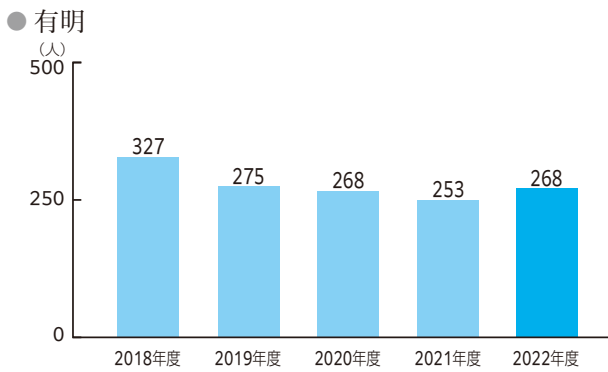
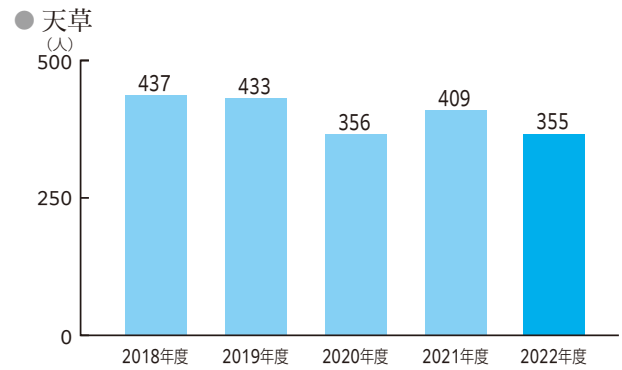
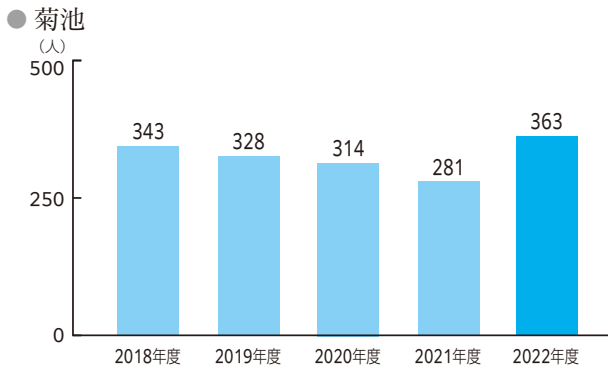


● 熊本・上益城



● 宇城



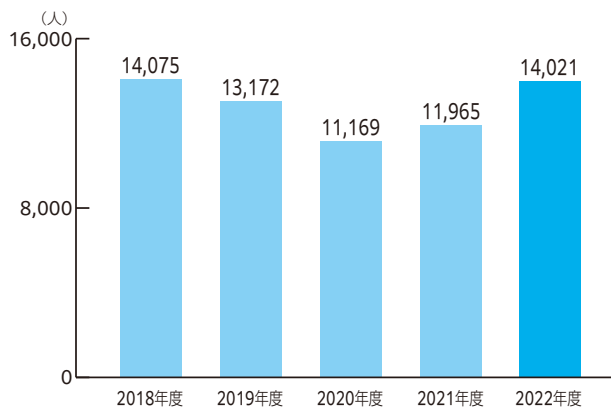


11 二次保健医療圏

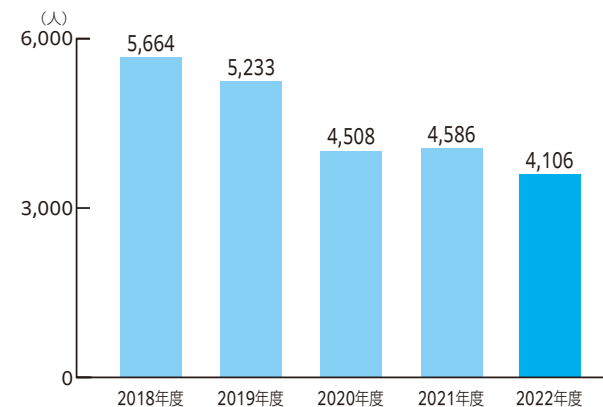
11-2 来院手段別

熊本・上益城

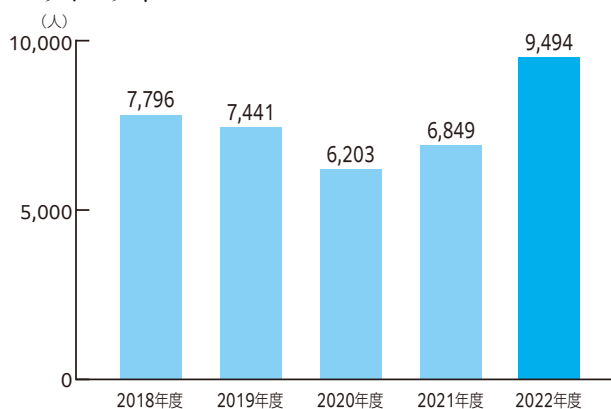
● 地域合計



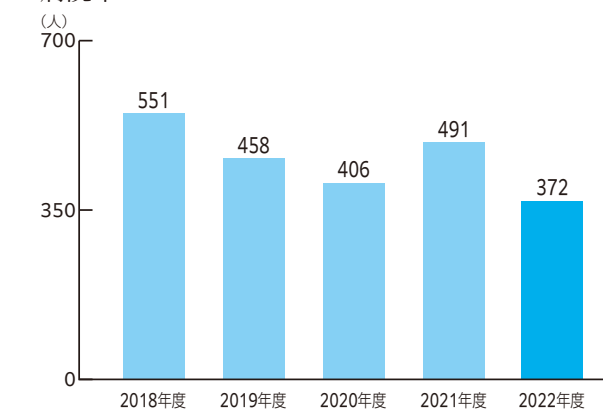
● 救急車



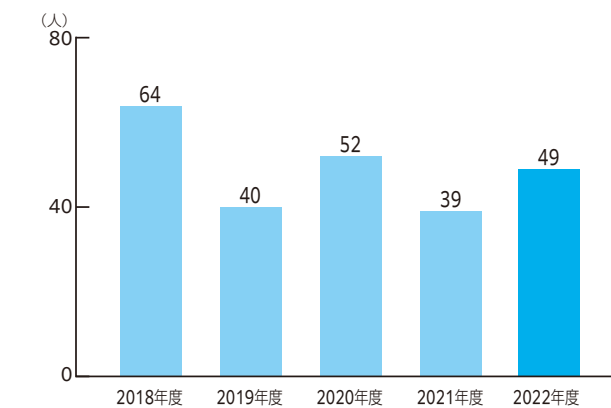
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

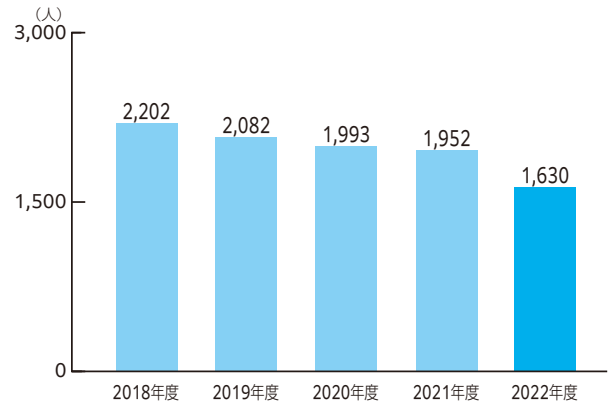


宇城

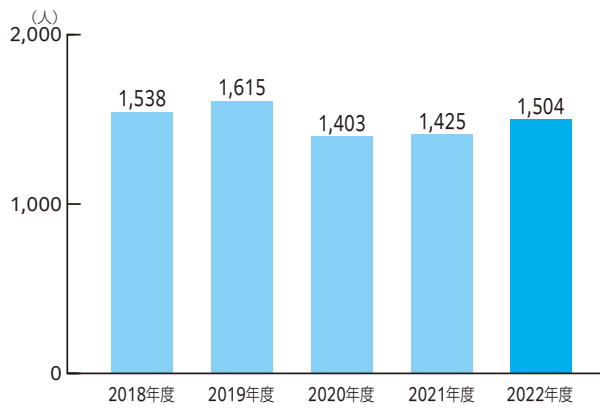
● 地域合計



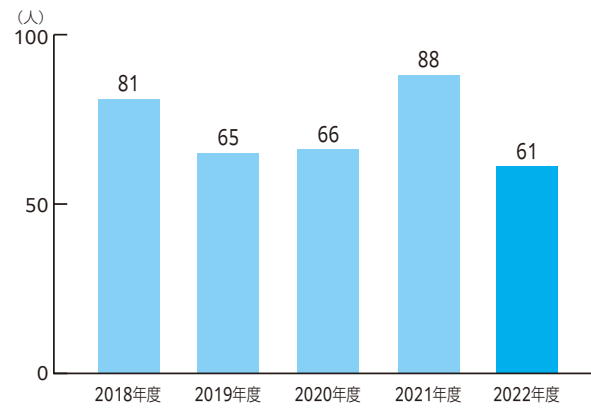
● 救急車



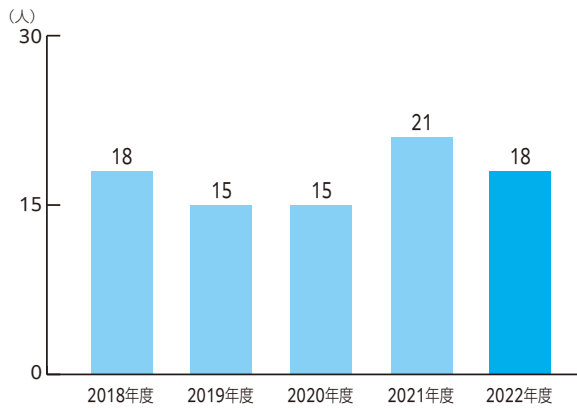
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

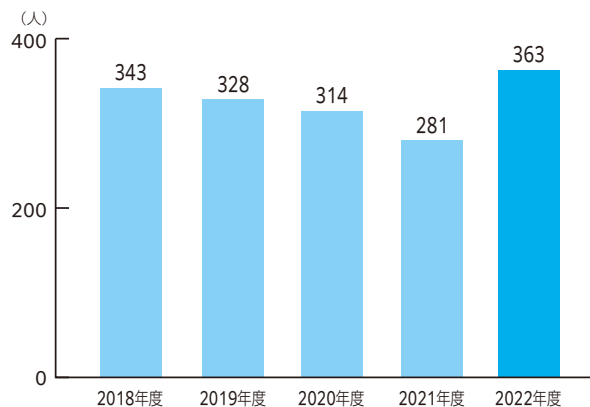


11 二次保健医療圏

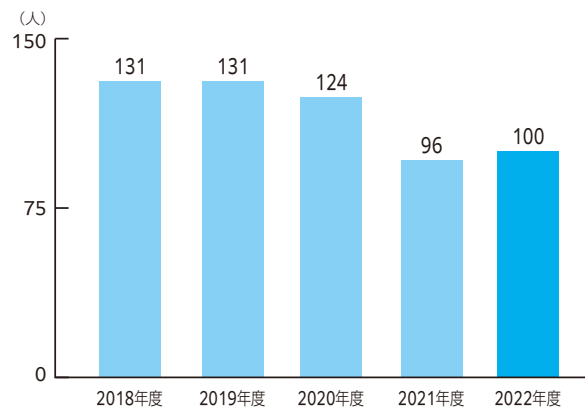
11-2 来院手段別

菊池

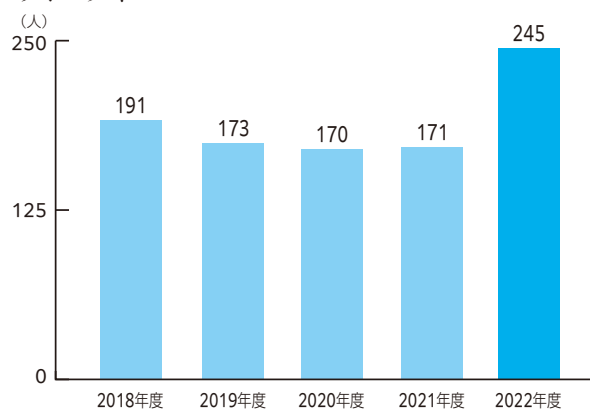
● 地域合計



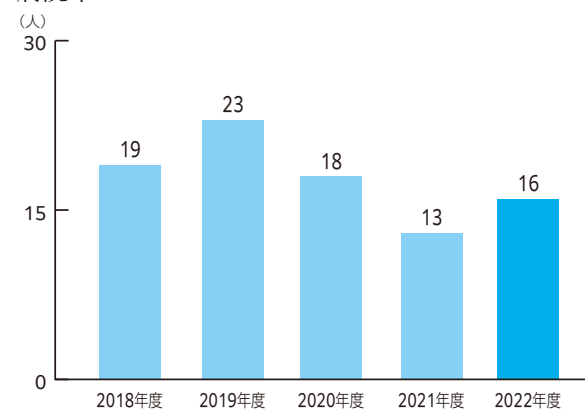
● 救急車



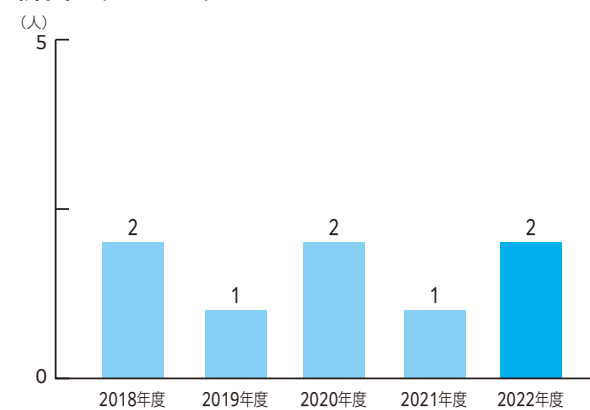
● ウォークイン



● 病院車

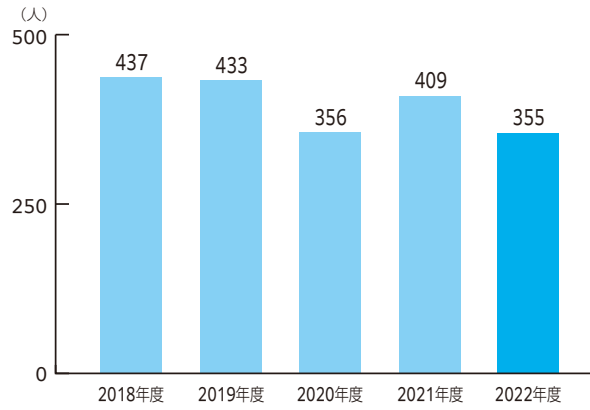


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

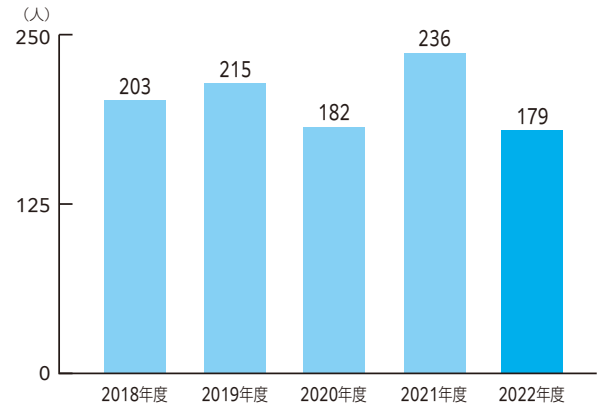


天 草

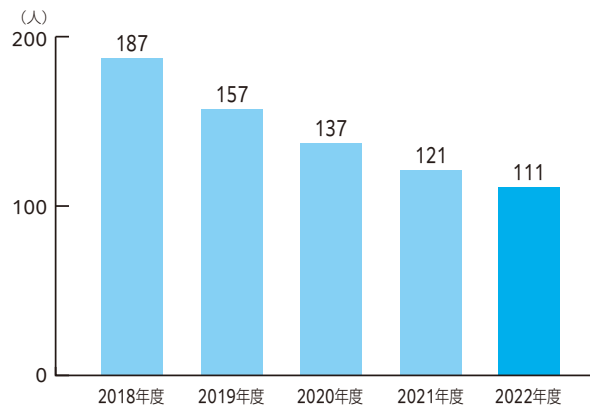
● 地域合計



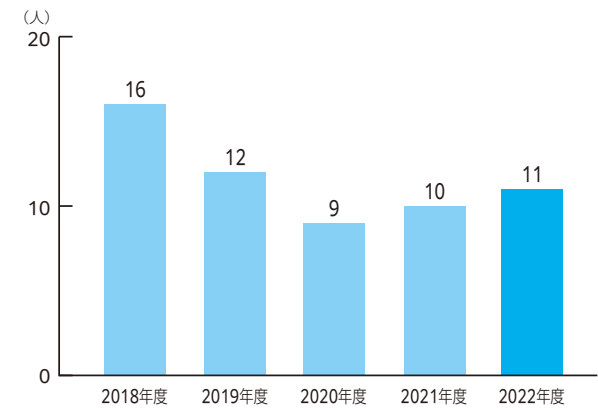
● 救急車



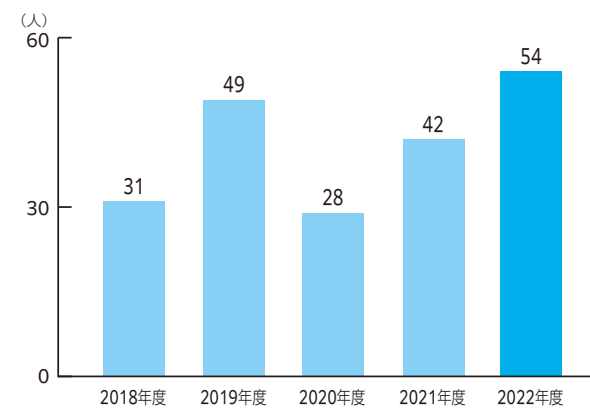
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

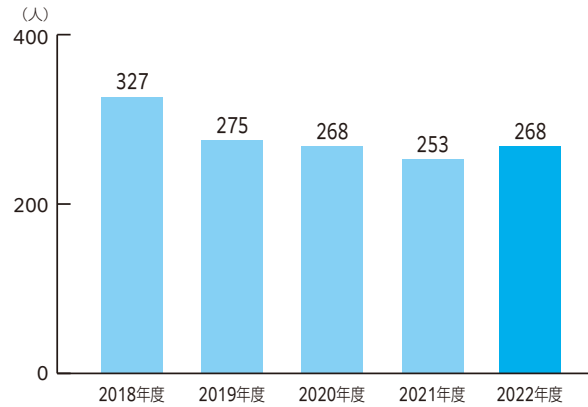


11 二次保健医療圏

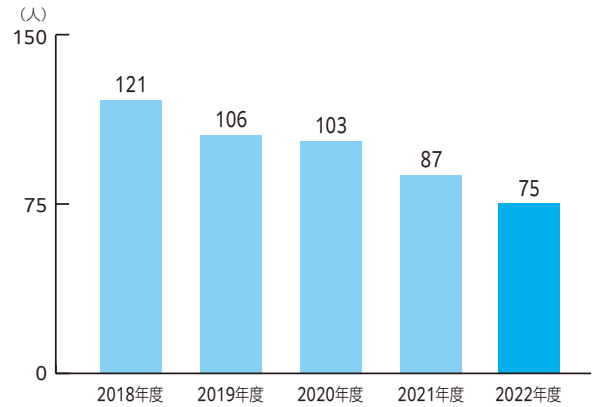
11-2 来院手段別

有 明

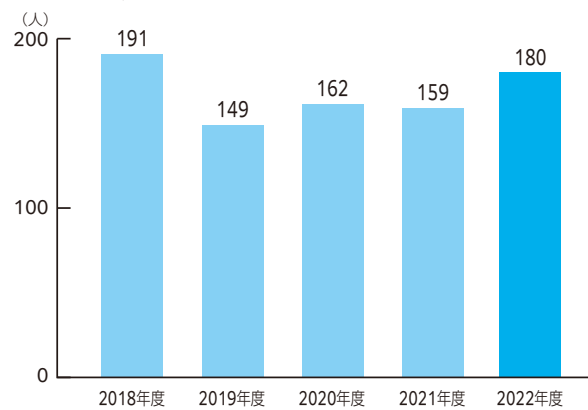
● 地域合計



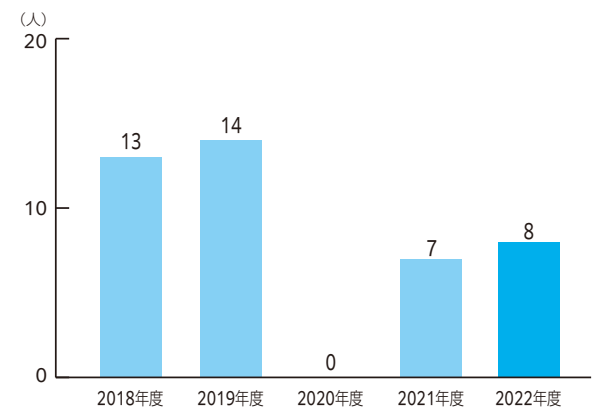
● 救急車



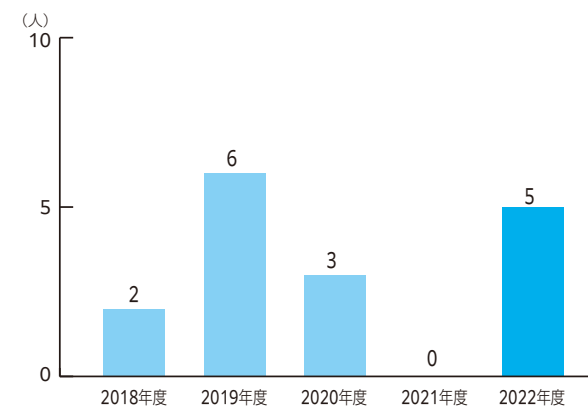
● ウォークイン



● 病院車

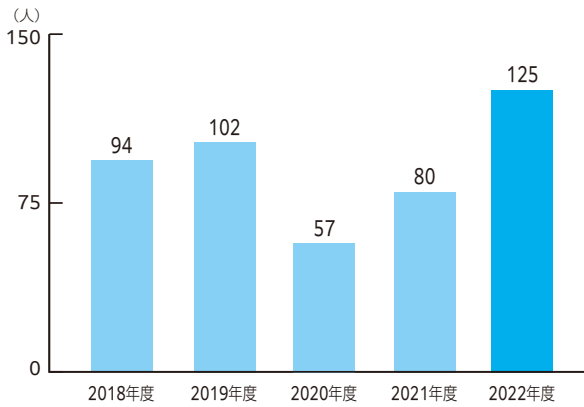


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

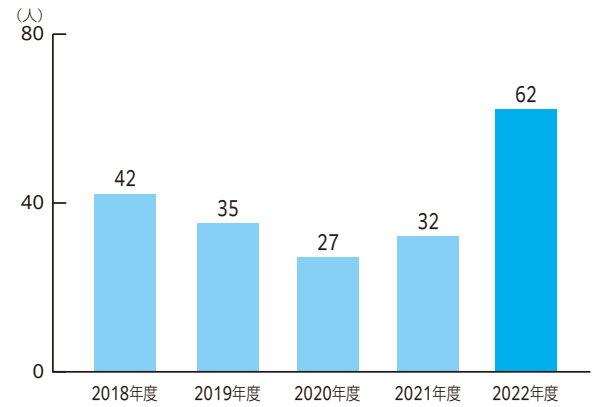


阿 蘇

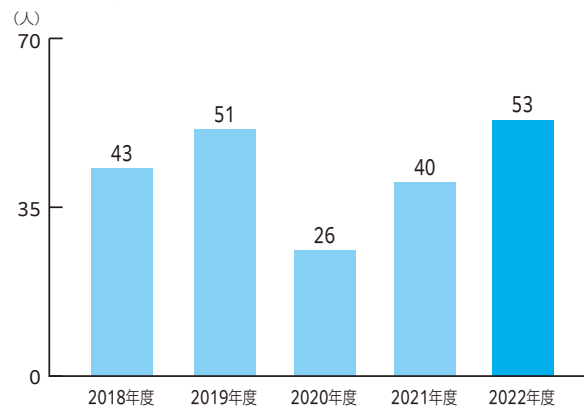
● 地域合計



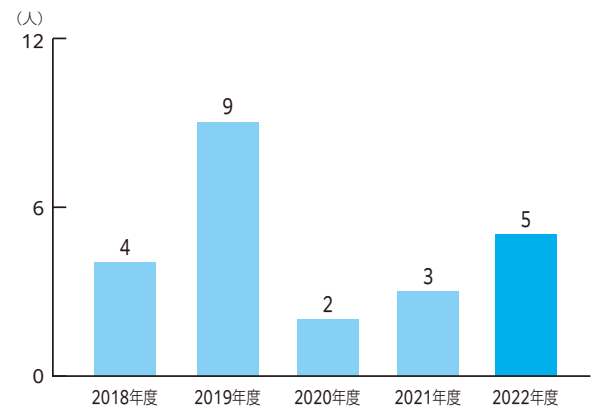
● 救急車



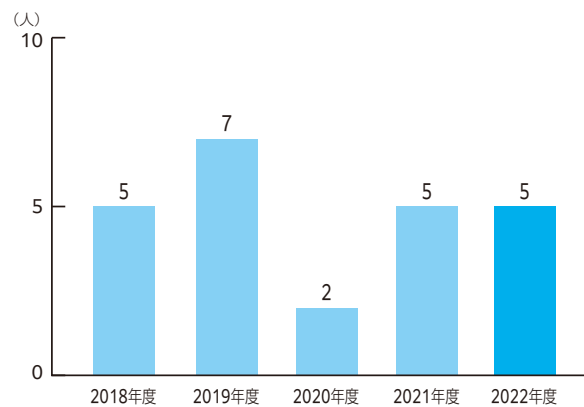
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

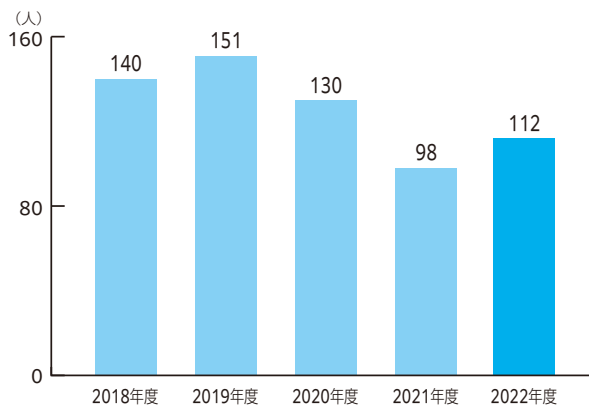


11 二次保健医療圏

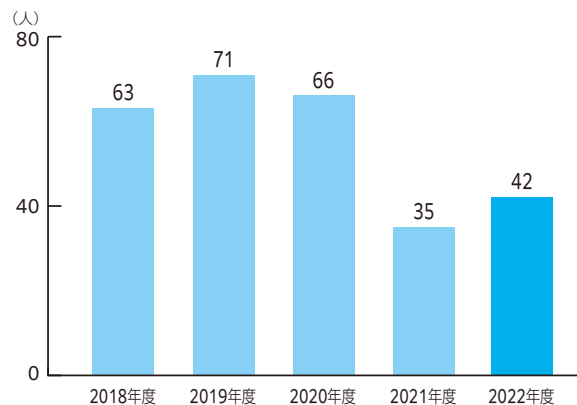
11-2 来院手段別

八代

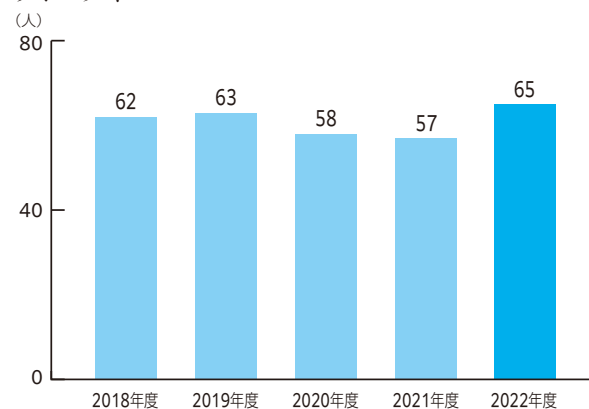
● 地域合計



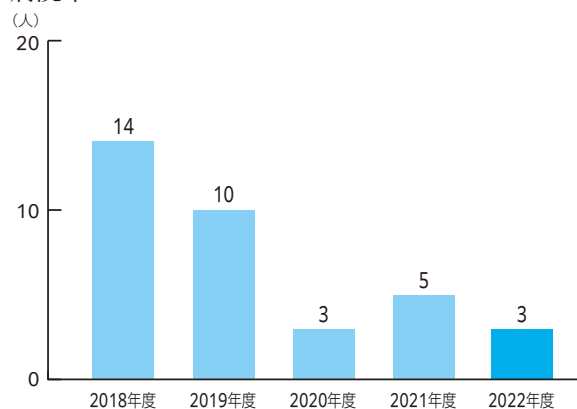
● 救急車



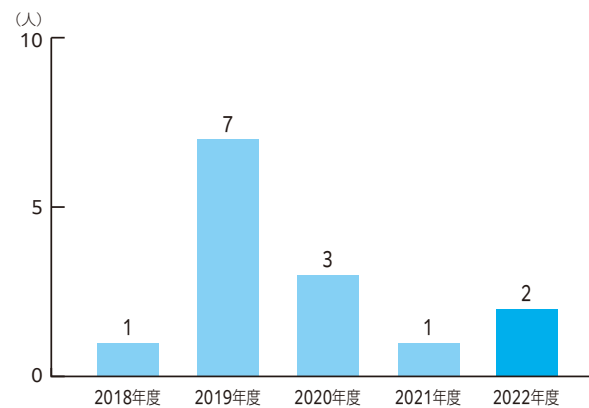
● ウォークイン



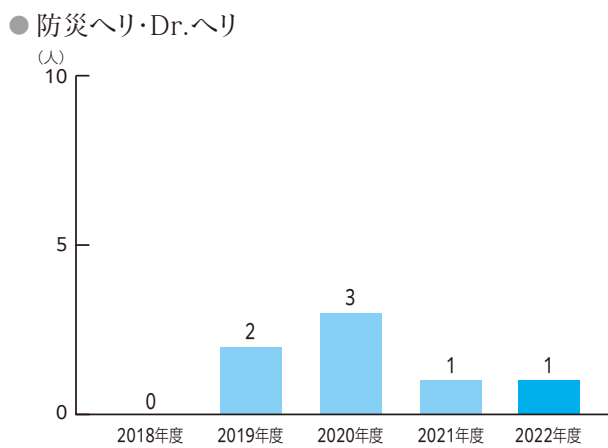
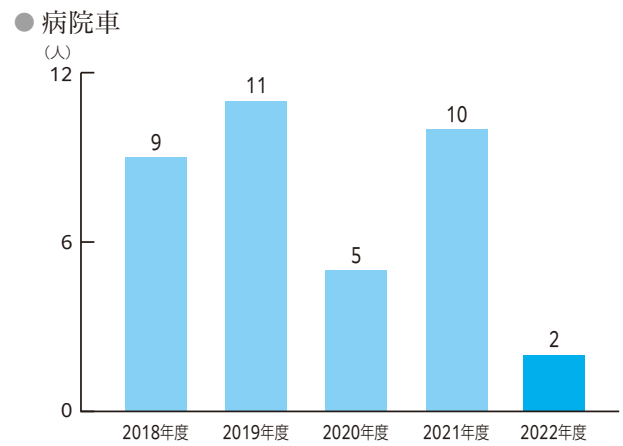
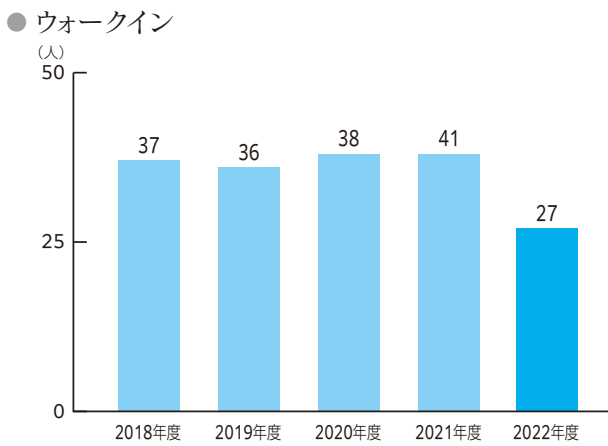
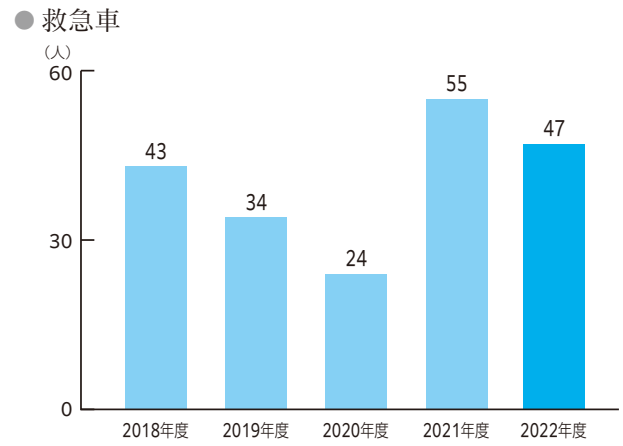
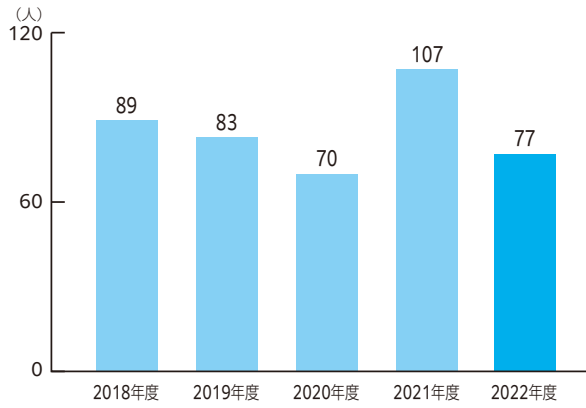
● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ



鹿本

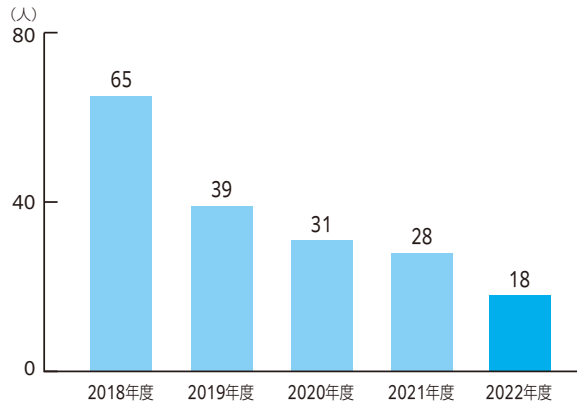


11 二次保健医療圏

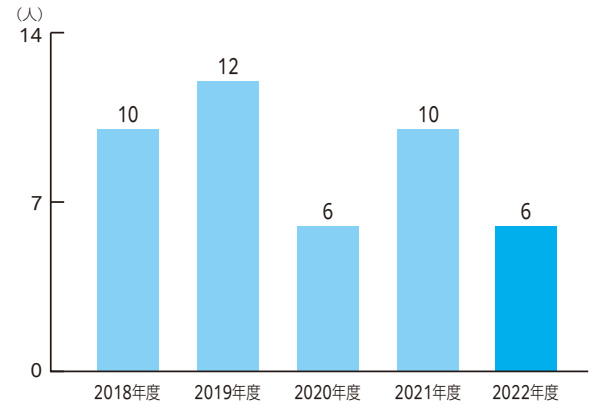
11-2 来院手段別

球 磨

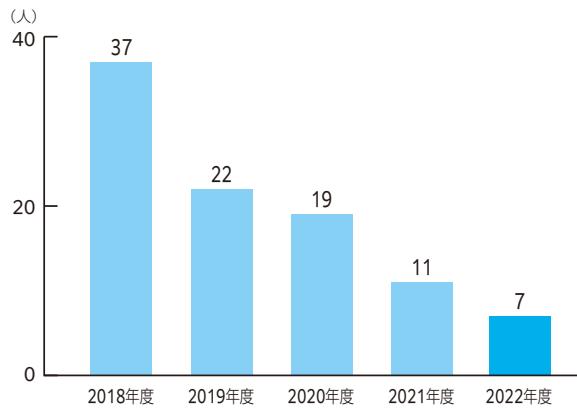
● 地域合計



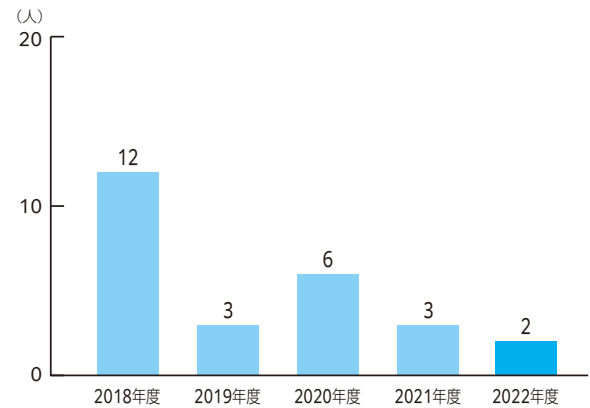
● 救急車



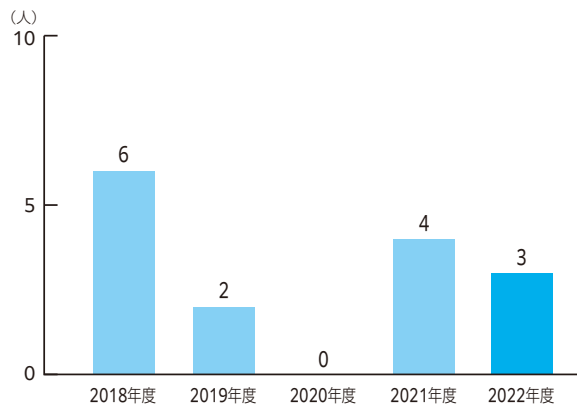
● ウォークイン



● 病院車

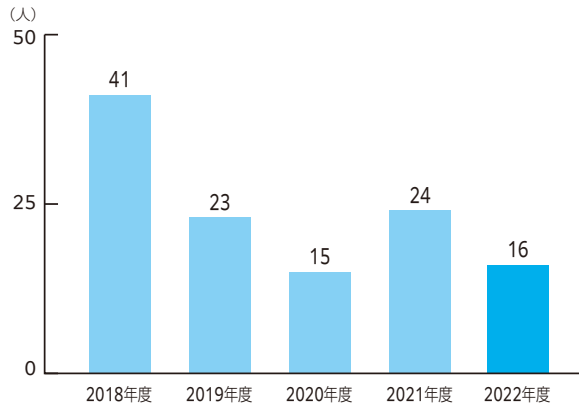


● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

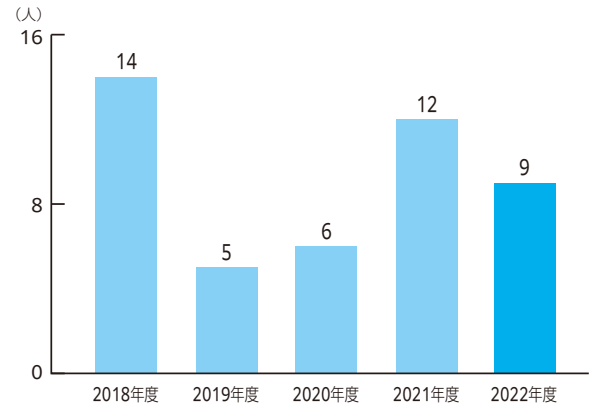


芦北

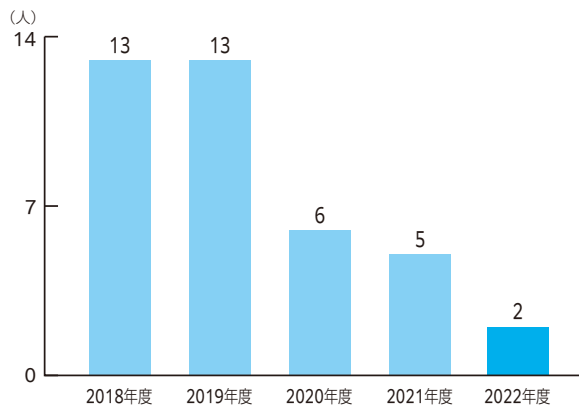
● 地域合計



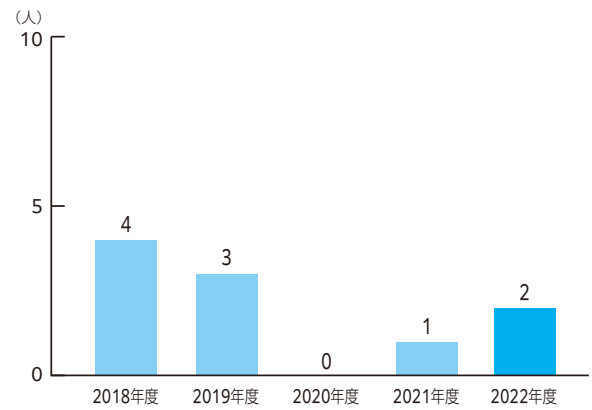
● 救急車



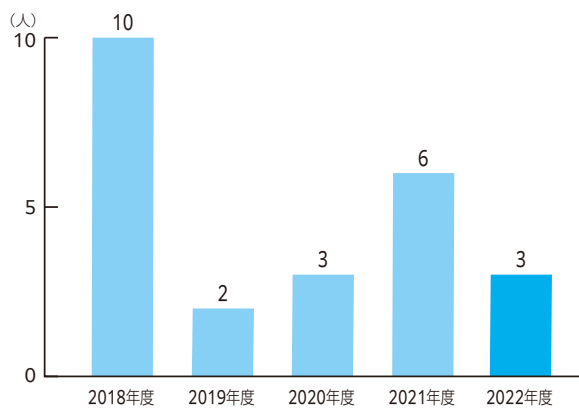
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ

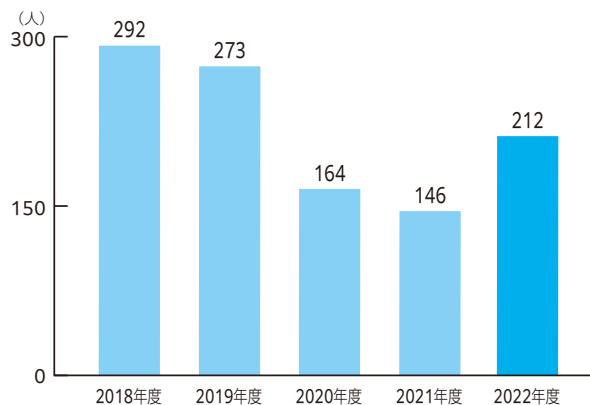


11 二次保健医療圏

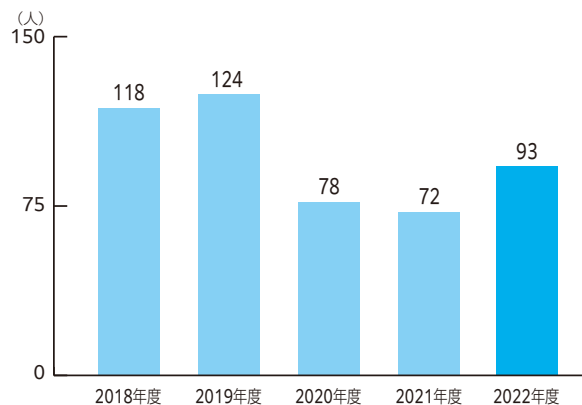
11-2 来院手段別

熊本県外

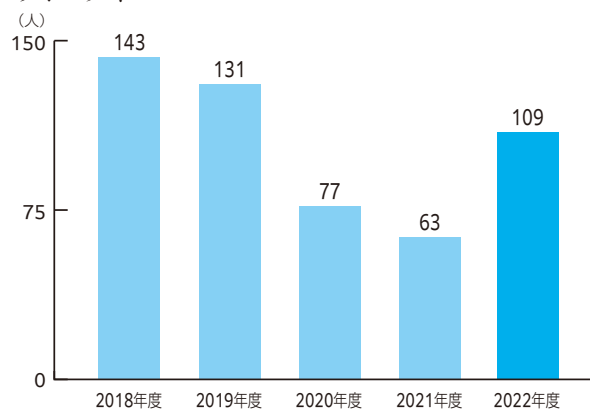
● 地域合計



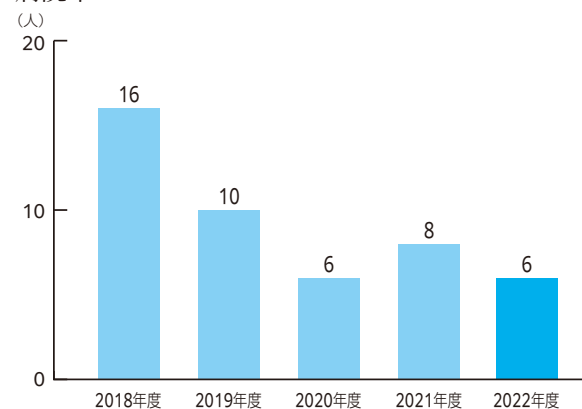
● 救急車



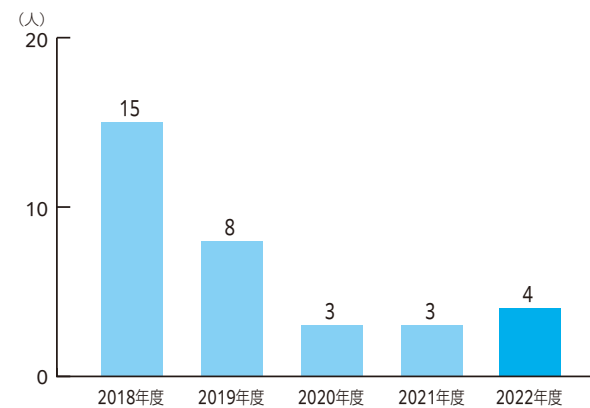
● ウォークイン



● 病院車



● 防災ヘリ・Dr.ヘリ



救急統計

The Statistics of The Emergency Medical Care

2022

—《記事》—

C o n t e n t s

「救急外来における帰宅時支援の取り組み」	30
院内救急救命士の展望	31
九州沖縄ブロックDMAT実働訓練を開催	32
済生メディコン会の実施状況	33
Facebookページの紹介	33



「救急外来における帰宅時支援の取り組み」

新型コロナウイルス感染症の対応も3年目となり、救命救急外来（以下ER）では一人ひとりの感染対策強化を行い、予防策を徹底した適切なトリアージを行った初療に取り組みました。受診前の電話相談では、発熱や呼吸器症状などの新型コロナウイルス感染症を心配する相談が増加し繁雑する中で、感染経路の特定や症状の多様化もあり、問診の強化と生活環境を把握した対応が必要となったため、これまで以上にホットラインなどの受診前情報収集と医師との連携が重要になり、安全な救急患者対応に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症診療以外の主な取り組みは、ERより帰宅する患者への帰宅時支援の強化です。背景として2021年4月～12月にERを受診した患者12,086名のうち、帰宅後48時間以内に再受診した患者が350名（受診者の約3%）であり、うち再受診後帰宅したのは約70%、入院は約30%でした。再受診理由は、腹痛や頭痛、外傷などの症状持続や再燃などであり、痛みが再受診に繋がっている傾向が明らかとなりました。

ER看護師は、患者の異常の早期覚知や地域、在宅へ継続ケアをつなぐ役割があります。高齢者の救急需要、在宅医療の促進により救急搬送の増加が見込まれる中、適切な帰宅支援と地域医療機関や介護・福祉サービスなど、地域につなぐことで再受診リスクの軽減に繋がると考えます。現在、ERには5名の院内認定退院支援看護師がおり、必要時にケアマネジャーへの情報共有や電話訪問を行っています。疼痛などの有症状で帰宅する患者へのフォローが課題であり、帰宅後電話訪問対象の見直しを行いました。具体的には、高齢独居または高齢夫婦世帯の有症状患者や、来院時よりADLが低下した患者への電話訪問を強化し、迅速な対応につなげることを目的に取り組んでいます。

患者が安心して生活できる具体的な対処行動が実践できる看護師育成と、ERにおける帰宅支援の充実による満足度向上を目指し、これからも取り組んでいきたいと思えます。また、可視化できる記録ツールなど体制構築を行い、質の高い救急医療に努めていきたいと思えます。

救命救急外来師長 荒木 裕子

院内救急救命士の展望

救急救命士は、重度の病人やけが人が発生したとき救急車に同乗して現場に向かい、医師の指示のもと最大限の救命処置を行い医療機関に搬送するのがその役割でした。しかし、2021年10月の救急救命士法改正によりその役割が院内の救急外来にまで拡大したことで、救急救命士の新たな活躍の場が広がりました。これを受け、当院では救急外来の医師や看護師からのタスクシフトを推進するため3名の院内救急救命士が救急外来のチームの一員として、バイタル測定、静脈路確保、酸素投与などの処置を実施し活躍しています。

また、院内救急救命士の活躍の場を更に広げるため、救急電話相談、レジストリ登録、医師事務作業補助など、幅広い分野の業務も担い始めました。他に、当院では救急車4台を保有し年間約600件の「転院搬送業務」も院内救急救命士が担っています。救急車の装備・点検を自ら行い、24時間体制で安全な搬送業務に取り組んでいます。また、院内職員に対する「蘇生トレーニング」の指導も重要な役割の一つです。救急救命士の資格を活かし、年間を通して救命処置のインストラクターも務めています。

三次救急を担う当院にとって救急隊との連携は欠かせないテーマです。例えば、定期開催の当院と救急隊と合同の「症例検討会：済生メディコン会」では、救急隊との事前調整や検討会運営を院内救急救命士が担っています。また、救急隊が病院実習を行いながら現場出動する「救急ワークステーション」や救急救命士の「病院実習」では院内の調整役としての役割を担っています。このように、消防救急救命士と院内救急救命士との連携強化を図りながら救急体制の充実を進めています。

しかし、院内救急救命士の取り組みは、まだ始まったばかりで少数でもあることから認知度が低いのが現状です。今後の展望は、「断らない救急」をモットーに業務拡大を図りながら院内救急救命士ならではの業務を定着させ、院内外の認知度を高めていくことです。

救急・災害医療対策室長 金子 忠明



❁九州沖縄ブロック DMAT 実働訓練を開催

2023年1月28日に「九州沖縄ブロックDMAT実働訓練」が開催されました。この訓練は毎年九州沖縄の各県が持ち回りで担当し、今年は熊本県が主催となりました。当院からは、DMATメンバー（17名）が参加し、熊本県保険医療調整本部（熊本県庁）、県央区域活動拠点本部（済生会熊本病院）等訓練の主要部門にて運営訓練しました。

今回の訓練では、日奈久断層帯地震及び布田川断層帯地震を想定し、関係者の「顔の見える関係」の構築や必要技術を習得するとともに、課題の把握及び対応方法に係る検討を行い、今後の災害医療体制の充実を図る事を目的としています。当院で運営された活動拠点本部では、物品配置等の課題も多く見付き、充実した訓練となりました。

今後も災害拠点病院として、平時から準備と体制構築を進めたいと思います。

救命救急支援室長 山下 正



❁ 済生メディコン会の実施状況

毎月第3水曜日に開催している済生メディコン会は、それまで熊本市・宇城・上益城の3署と済生会との開催でしたが、2021年度から開始した県内全消防本部参加型のWEB開催も2022年度には軌道に乗り、毎回多くの県内消防本部から参加して頂けるようになりました。県内全域からの情報共有と有効な意見交換ができる様になり、お忙しい中にご参加・聴講して頂けることで大変有効な症例検討会を継続できています。

そのような中、新型コロナウイルス感染症の5類移行により対面+WEBによるハイブリッド形式での開催を再開し、以前のような活気が少しずつですが戻っているように思います。

今後は、熊本市・宇城・上益城の症例だけでなく、県内全域から当院への搬送症例や地域特性ならではの症例、取り組みなど広く募集し、より活発な意見交換を行うことで県内の救急医療に少しでも役立つ会にしていきたいと思っています。WEB会議の特徴を活かし皆様と顔の見える関係を構築し、価値ある済生メディコン会を目指していきますので、色々なご意見・ご要望を頂けると幸いです。

今後とも済生メディコン会へのご協力宜しくお願い致します。

救急・災害医療対策室 瀧下 恭司

❁ Facebook ページの紹介

済生会熊本病院 救急総合診療センターでは、Facebookページを開設し、情報発信を行なっています。Facebookアカウントをお持ちでない方も閲覧できますので、是非ご覧ください。

(URL) <https://ja-jp.facebook.com/skkyusoshin/>



2022

救急統計

編集発行	社会福祉法人 ^{恩賜} 済生会熊本病院
作成日	2023/12/7
編集責任者	中尾 浩一(院長) 前原 潤一(救命救急センター長)
作成部署	救命救急支援室